



按摩手引

全



按摩手引

在昔蒙莊鴻烈之書皆以
熊經鳥伸為延年之術降
至三國華元化之有五禽
戲以養生以除疾後世稱
按摩者蓋其遺意也而今
之業此術者非聾則瞽皆

破產失家之法不能糊口
農商急求錢之所為何遑
講其學只談怪說淫求容
于富家子弟無復問其手
法如何矣於是延年除疾
之事邈焉似不相關醫家
乃不具之治療一法目以

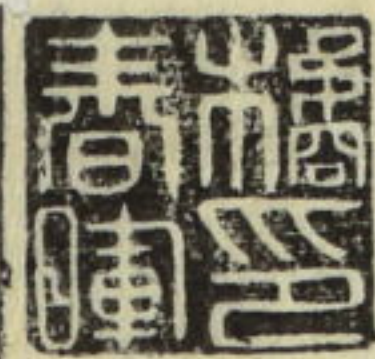
為遊戲賤術伏水藤林生
之治之者也深歎其術之
違古意遍搜諸家考正經
絡辨明臟腑一按不苟下
一摩無妄觸專攻不休其
術之熟按痞則痞通摩塊
則塊銷奏効之著幾不讓

湯液其名大噪一鄉人或
勸錄其法以傳乎世生曰
吾無奇法何錄何傳不果
今歲復有書肆之請生不
能辭務除奇譎壹從平正
集錄遂成一書名曰按摩
手引以附剞劂自今以後

世之業按摩者由是法而
學焉則延年除疾之効豈
可不期乎余之所以義此
舉也

寬政十一年己未孟冬

橘春暉撰



と業とらる者の中めさる。經絡穴法を
と成るべ。凡そなり療治あり。只此に
口腹を養うためなり。事あるは是等の病
の機を捉え取れ。重く世に難治の
病者れ。加ふく其療治をおく。切に
故り其療治をく。人可なり。より
いんや。道徳修行せざる。下下劣り
なり。や。人其。手。血。を。え。ら
る。や。ん。や。只。主人の體をゆとり。若

し。ひる。事。多く。且。其。法。め。あ。ら。ば。
和。乃。は。い。り。其。理。ある。が。目。え。り。と。
草。叶。を。從。たり。退。屈。法。な。と。是。其。法。は
あ。ら。る。が。故。なり。然。り。と。え。ど。も。家。毎。の。從。僕
は。按摩と。稽古と。なり。や。ん。め。あ。ら。ば。と。は
あ。ら。る。中。師。め。さ。る。と。は。易。く。按摩
法。の。知。る。の。書。と。著。し。按摩を。引。と。号。し。
世。に。弘。く。偏。固。辟。地。按摩の。師。な。れ。と。ころ
誰。も。は。書。と。得。く。熟。習。し。く。は。療。じ。

急病あゝん時れ助とてさうせんとなん
 盤華れ地按摩の自由なる所とてさう人々
 子母眼あゝん時れは書と見え申按摩の法
 母通子と親け撫婦人を男姑り法
 うえ。下如中男ハ主人の爲り療治法なり
 其氣血流えう心気細和病治
 無病長生なりしやんや。孝弟忠信の道名
 一助もなきとて。繪圖中あらはる。其上註と
 くり初心の便とて。

人乃樂とてさう無病長生なりとてさう
 按摩の法をえり人の氣血流り長生
 と保とてさうの術とてさう母都會盤華名
 地中醫師多く按摩も数多くさうとも
 うり病者多く長生の人なり幽辟の
 田舎中醫師もさう按摩も又さうあり
 さうども病者少く無病なりとてさう長生なる
 ハいんとさうとて。盤華の比ハ亦中なりとて
 養生法食。安逸なり。其上家半子あり。

手の力を極め人々困る。先開筋を損人乃
 之氣を損ふ。是人の長生をさす。さる
 ものなり。やあうとぞ按摩紙をえんとす。よ
 人々うは書れ理とあ。其法紙。難習人々
 害とら。とみうと病を又け。理とよ。辨え
 知。按摩の切石。切紙。指。下。男。女。も。教。て
 療治紙。な。と。先。氣。血。紙。と。病。紙。追。け。各。病
 長生。め。て。天。の。命。紙。保。川。魚。と。雨。云。

依水 藤林良伯述

按摩手引目録

- 頭療治 摺古 繪圖 註付
- 療治人體 三 体 同
- 療治人々 心得の事
- 療治の内外と不具事
- 療治人々の体々 換の事
- 按摩自慢せぬ心得
- 補瀉の療治 繪圖 註附
- 二行通 三行通 同

○ 按摩 稽古

繪圖註付

○ 股診の事

同

○ 按摩の手法

同

○ 小児按摩

同

○ 産婦按摩

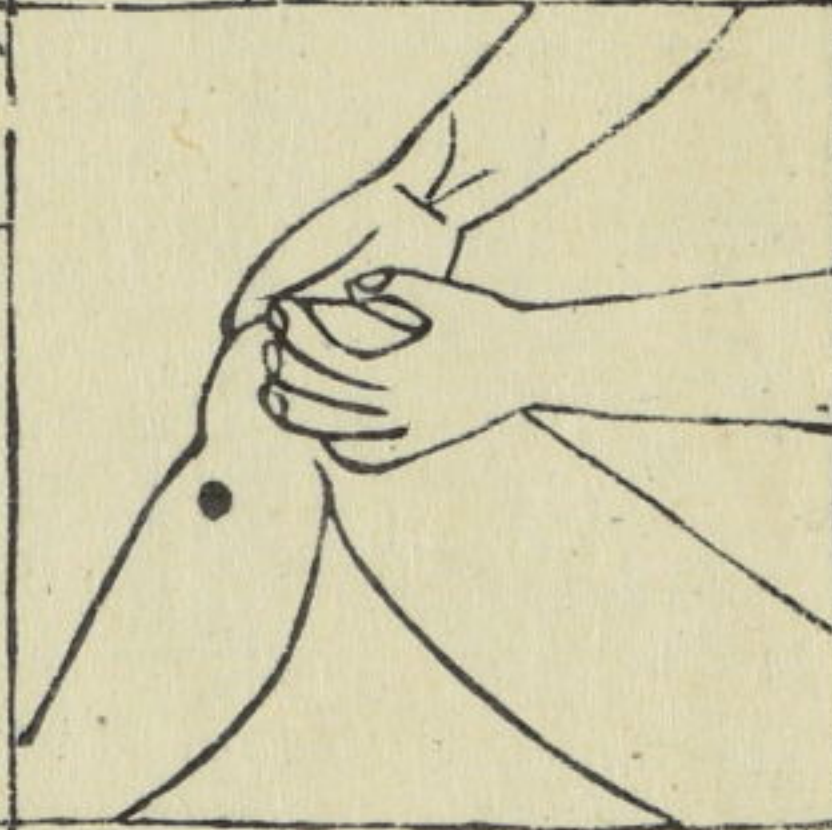
同

○ 鍼灸 稽古

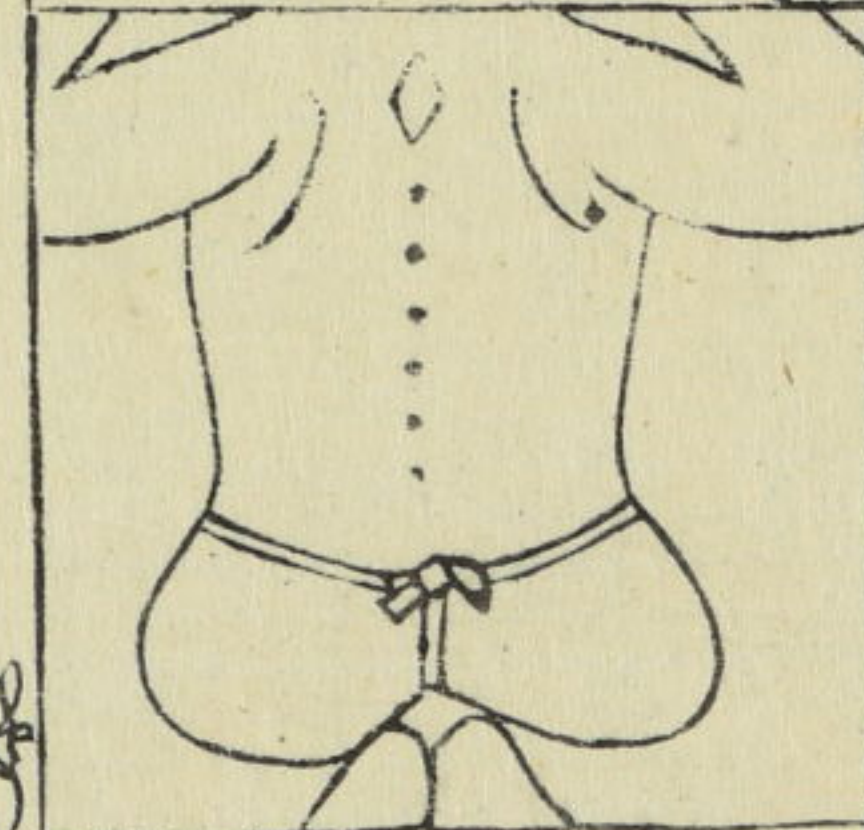
同

按摩の目録終

頭療 稽古 治療 人體



繪圖にあらす頭の療治稽古と云ふは
く我儘にたる膝の頭と病客の頭と
心得く暇くも稽古と云ふ



肩に療治にける時をまづ我足のま
をさしむらけ張るを敷と打ゆをす
せざるは病客の體地震のま揺すめ

療治人を心得の事

更按摩は病人の惣身に及ぶものゆゑ婦人へは療
治を人に至る遠慮をへし勿論陰部をへしはけぬ
極に心得るを要すかゝるも其心動く時治療の

小田里にぬきて其外いろの害起と知く
 堅く懐べしぬる病客ハ病せらるゝとく療治人ともこの
 病然する事なきと療治人ハ病客の心致察し我
 疾ひまにぬき深切に療治せしむべし一眠を
 せしむと多くぬきと事なきと人とも事なきと病客
 に療治せしむゝ鬼角油のわく熱をぬき療治せし
 ぬ者不切者の二つをば内中をきり妙術も主用する
 と多くぬき又此の症たるをわく程よくぬきと事なき
 ぬきとわくぬき湯に入ぐべし疥癬瘡其外腫物出た時
 ハ遠慮なく虱風痔下酒多く飲べぬきと事なきぬきと

療治の因抑は不見事

療治の間に手傷ゆかり事なきは見えぬ病客は療
 ぬき又棒せらるゝ病客の心致察する事なき
 カ接する病客ハ病せらるゝと事なきぬきと事なき
 運る物なきと療治の間に手傷ゆかり事なきは見えぬ病客は療

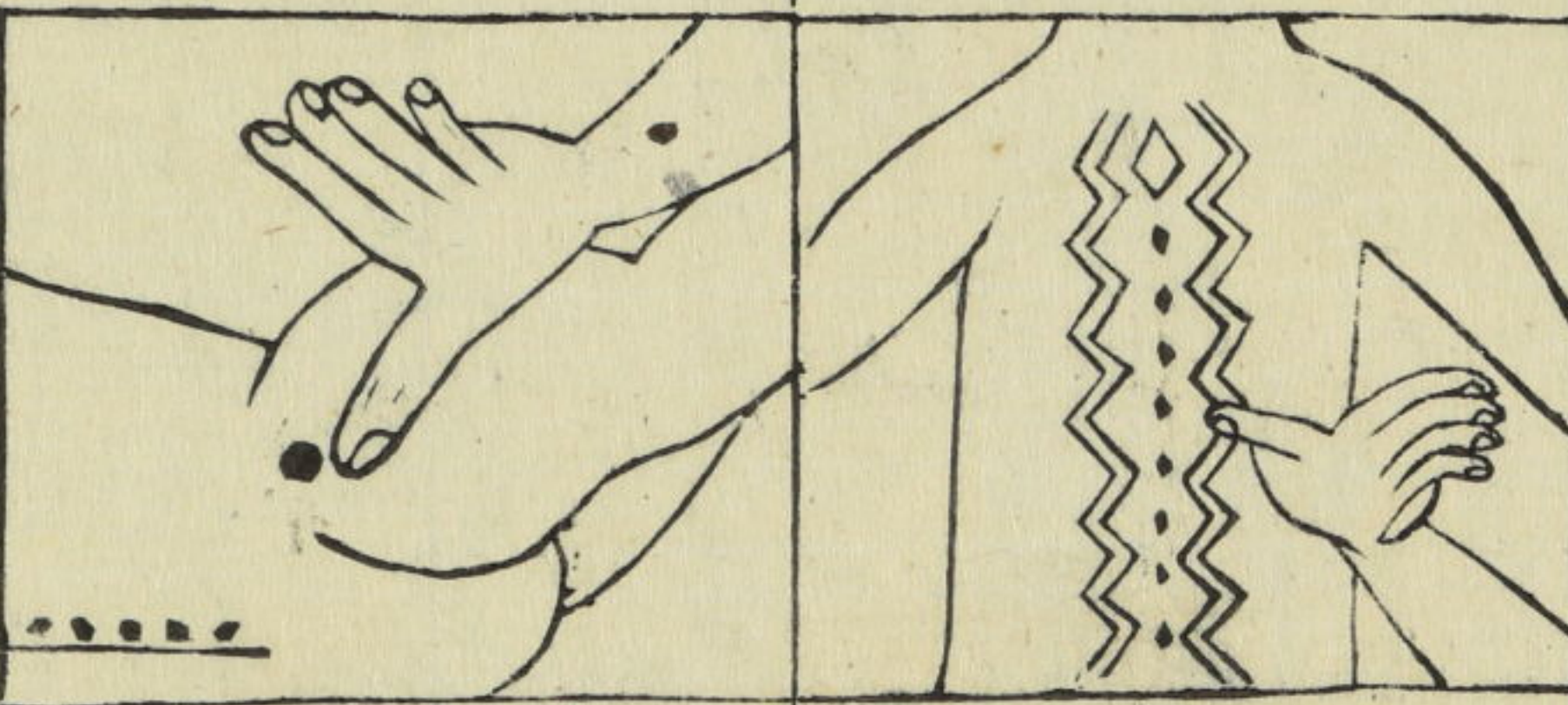
療治人の体め候

按摩ハ左右一度にぬきと事なきと一療治人の心
 てわく又病人もた右み守る事なきと事なき
 右は体も右はつと事なきは体む時と病人も心氣
 修めく心も心も

按摩自悟せぬは

按摩と指先の効なきは自悟せざるも病人を
上より下より知るものなりとて大に念に療治と
テ力骨遠なるの療治を痛く病人難儀なりと
かきとるは八病人の爲なきとていひ可くア
と云

補乃療治 浮乃療治



は圖にあるとやんごう上代大指
みくあてるまは補とある

浮の療治と云繪圖にあると云。腰脊手足
をそれ兒くは指やうくやむ程をさるは浮
と云。一サ一これある程をさるは補と云。
また邪氣よても毒事にくも積まぬ。昔もハ
よ。難波骨接もも癰血散と云の療治より下

按

し。按と云字をさるるまはなり。是を考へ
見ると浮の理は知るなり

摩

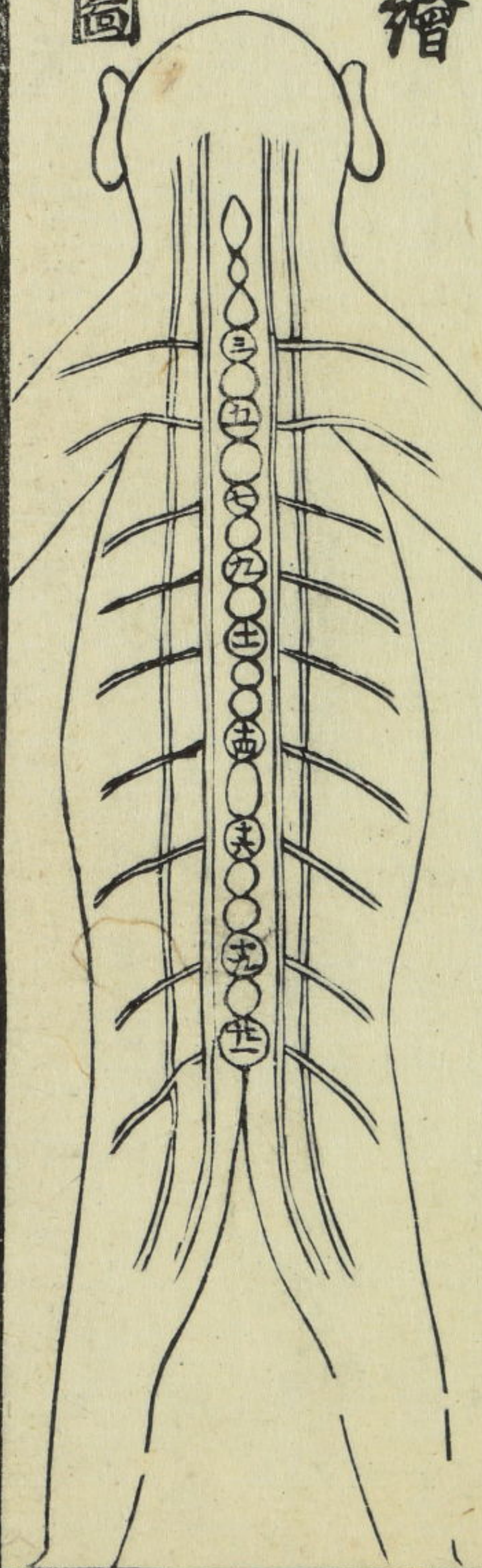
け摩と云字をなぐるものありまぐるものあり
ばなぐる理法ありまぐる補術に通とる



い圖れと大指やぐぐぐの上はは
らるなりなりを補術に補と體のまをい
とる體の滯と散とをなかり按摩の
全解は補術なりと心得るなり

二通行三通行

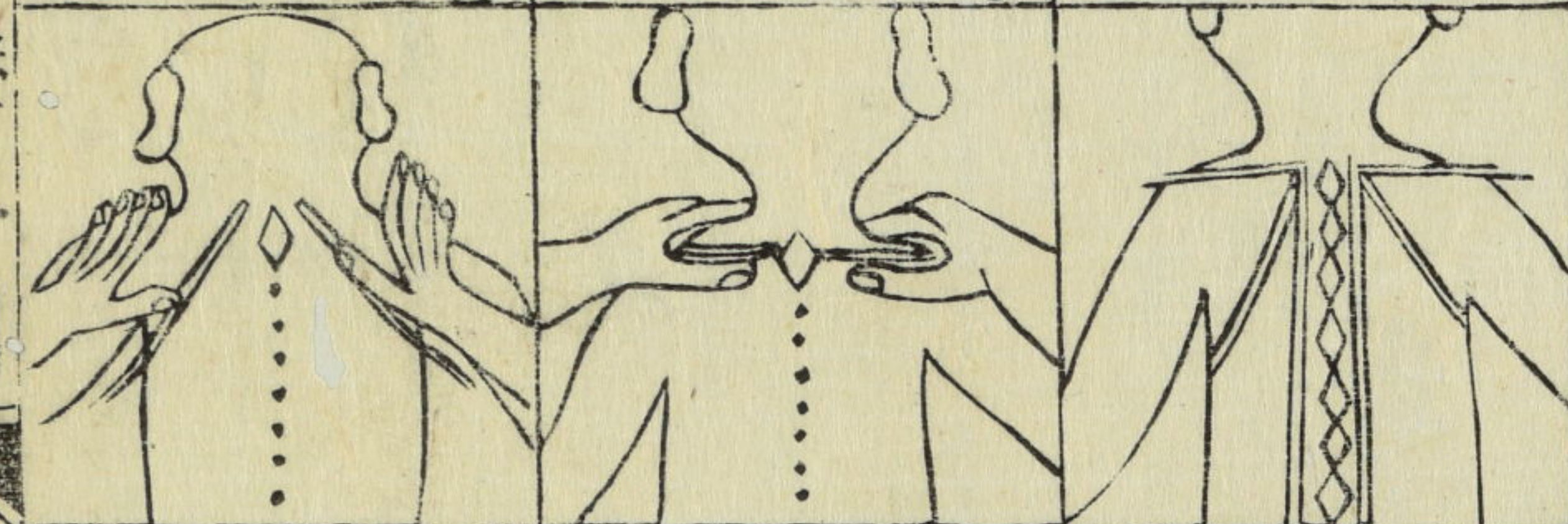
繪圖



按摩導引療治法と云人血氣血行を後と不
して八療治法と云一よりなる病や二より
治する病や初よりして八の事なりなりと給
ふ人血氣血行なる脈道なり脊骨の傍と二行通
と云よりなる可なり用とる大と筋ハ三行通
云也たの筋動脈大幹と云右左血脈大幹と云
氣血乃行る多とる得なりと足の二病より引張
るなりなる人足の指動なりの人ば給圖より
給なり惣身穴處ハ三百六十穴是等ハ十四經
くなり是より中よりなり鍼醫の法を鍼灸按摩

按摩手引
 凡そ多くをり見るとは本ハ按摩導引の
 稽古の爲めして針按摩按摩産婦の術と載と
 給ふと注と依引合で考ふとと按摩導引鍼灸
 の事ハ略知する一せよ此本の俗通めて人の
 身なるの書をなれ故愚案まづは書紙せめて人の
 身なりと爾云

墨規矩の一の 墨規矩の二の

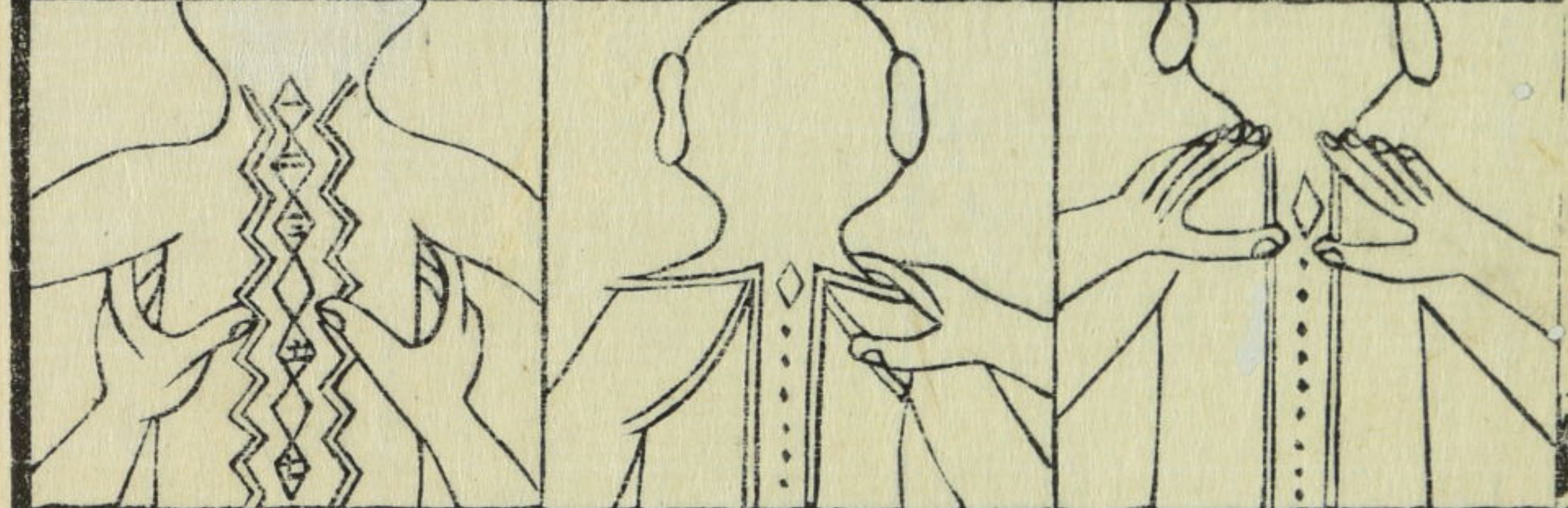


文療法の規給券に記せる如く立換十字
 字に徑引くを此とて是なるといふ
 此の書傳の規ハ先墨規矩といふ材
 木の作り換を定める也給圖の如くを
 かくとて療治めたるを

此圖ハ墨規矩の肉大推より肩髃
 ままでた右ハ分換する事十度なり

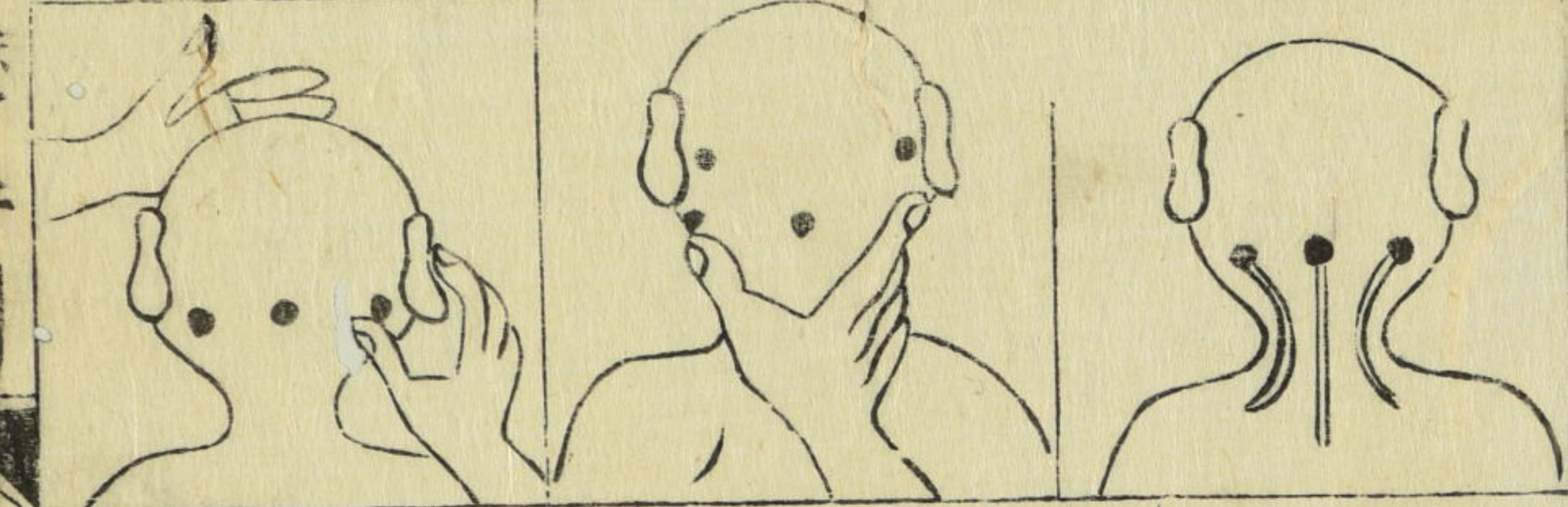
此圖ハ墨規矩の肉大推より肩の下の
 肩骨の傍をた右ハ分換する事十
 十度なり

雲親規の三 肩井の術 督脉の術



は云ハ雲親規の肩井の術ハ人膠穴より
 脊骨の傍二行通気押さへり又
 十度たりといふ此の術ハ押さへり
 け圖ハ雲親規の三行通督脉經也といふ此の術ハ
 押さへりといふ此の術ハ押さへり
 二推ハ肺五推ハ心七推ハ膈九推ハ肝十推ハ脾
 五臟の術ハ此の術ハ此の術ハ此の術ハ此の術ハ
 又後述の術ハ此の術ハ此の術ハ此の術ハ此の術ハ

雲親規の三 肩井の術 督脉の術



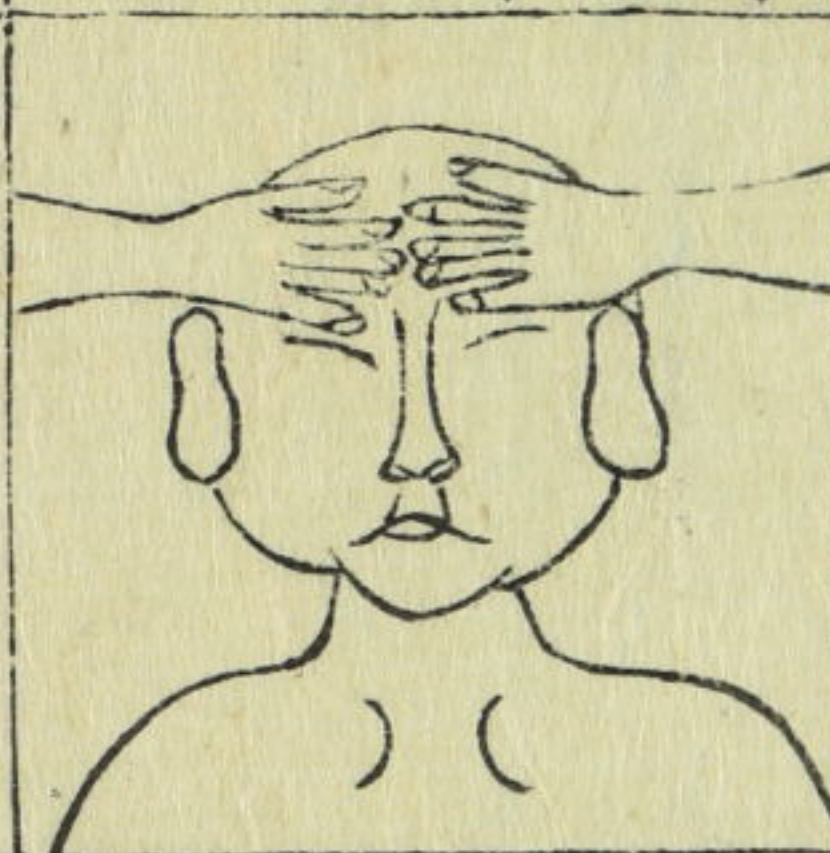
は圖ハ脊の療治法也といふ此の術ハ
 雲親規の三行通督脉經也といふ此の術ハ
 押さへりといふ此の術ハ押さへり
 け圖ハ雲親規の三行通督脉經也といふ此の術ハ
 押さへりといふ此の術ハ押さへり
 二推ハ肺五推ハ心七推ハ膈九推ハ肝十推ハ脾
 五臟の術ハ此の術ハ此の術ハ此の術ハ此の術ハ
 又後述の術ハ此の術ハ此の術ハ此の術ハ此の術ハ

頭維の術



は圖ハ左の頭維 左の角孫の骨と指
摩する術也 陰圖のやうに 左の角孫の骨と指
液をふく 齒の痛のとき 陰の術ハ 陰の骨と指

額中乃の術



は圖ハ清明 攢竹 神庭 之の骨と指 凡そ
凡そとる 骨を摩する 骨と曲あり 左の骨と指
て分排とる 曲と指と 骨と曲と 骨と曲と

頭中押の術



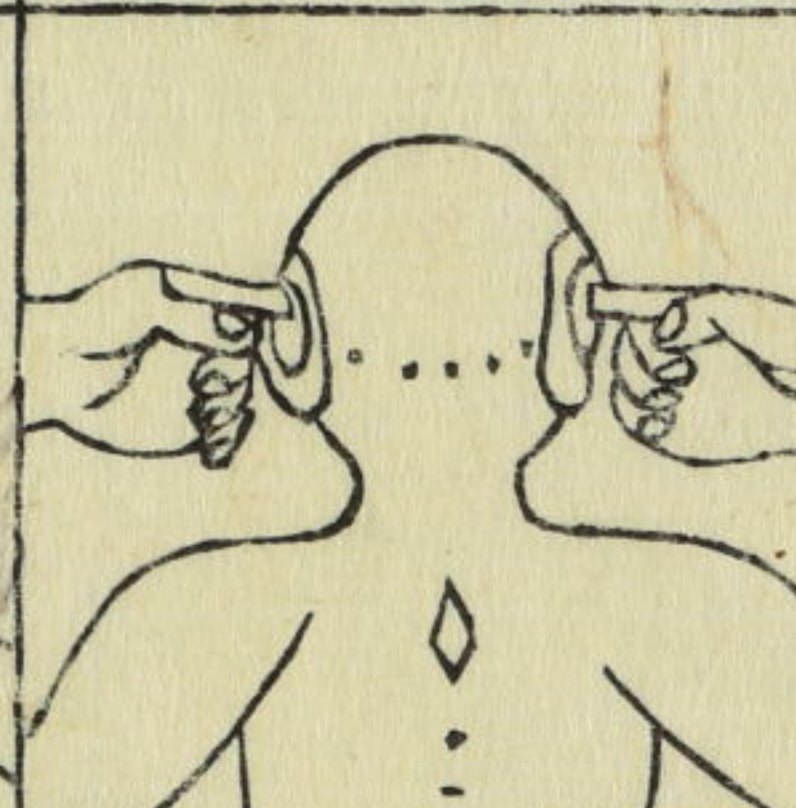
は圖ハ百會のり 神庭 之の骨と指 凡そ
色曲と婦人 髪を摩する 骨と曲と 骨と曲と
と曲と 骨と曲と 骨と曲と 骨と曲と

頭の曲



は圖ハ左の頭 骨と曲と 骨と曲と 骨と曲と
と曲と 骨と曲と 骨と曲と 骨と曲と

耳聾の術



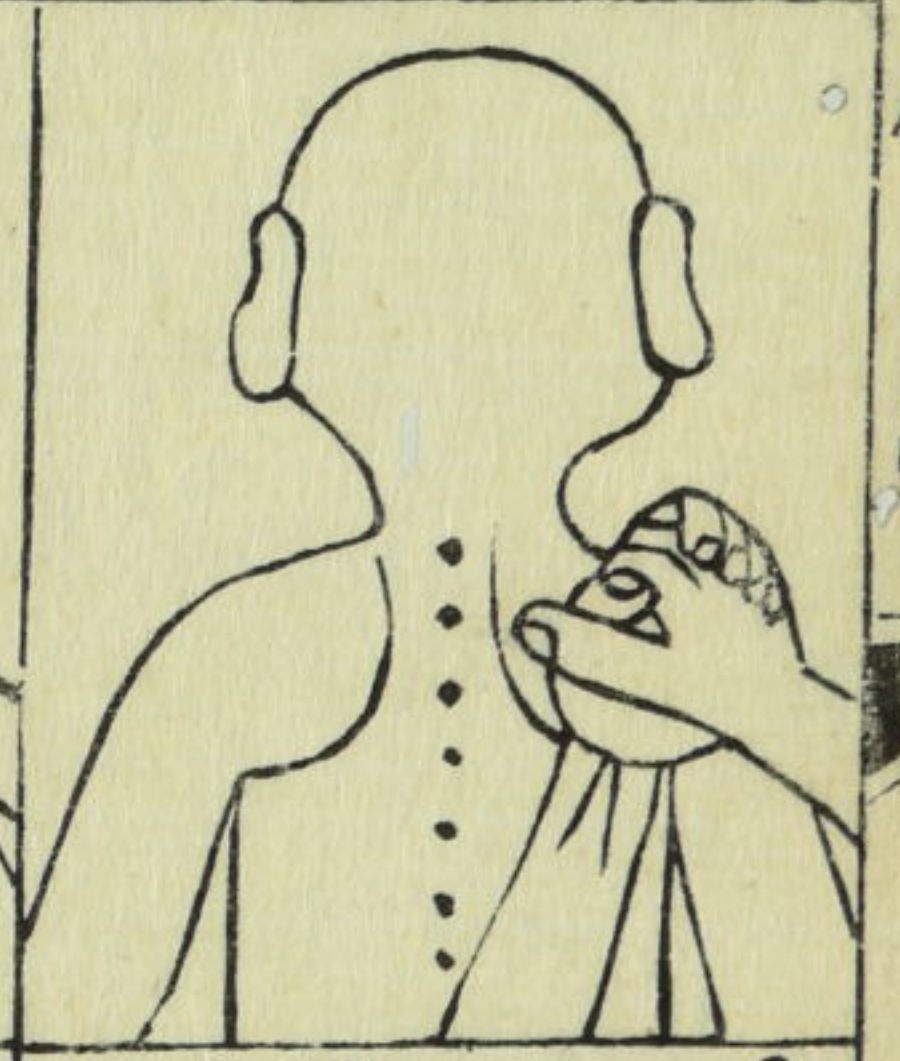
は圖ハ左の耳 骨と曲と 骨と曲と 骨と曲と
と曲と 骨と曲と 骨と曲と 骨と曲と

鳴骨の術



は圖ハ療治の曲と 骨と曲と 骨と曲と
墨規 柞の筋に 骨と曲と 骨と曲と

袈のお指



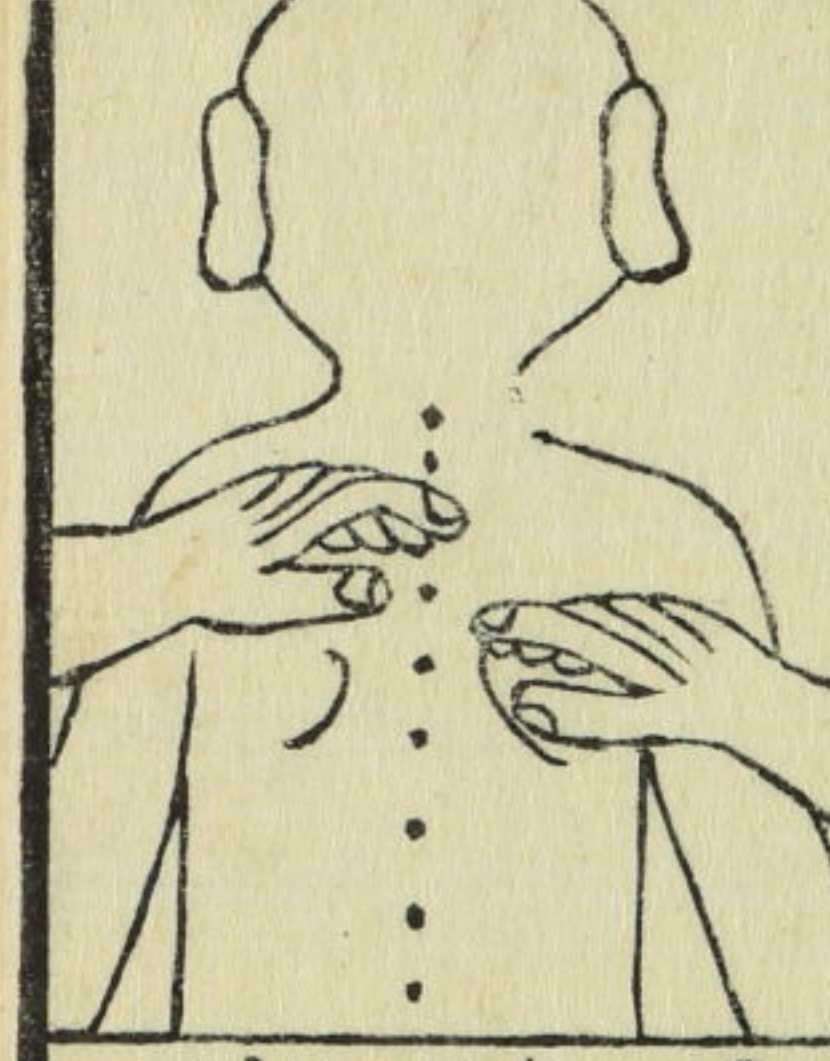
は圖ハた右のふく指を握り握り合を合
み指部と握りたるやそのついでに
付合を合れ甲中を握り合を合
るふく曲なり

大の指曲



は圖も曲ふ也大指の先を折て
あうふく曲なりた右一度めくも
た右たがひめくも合

三の指曲



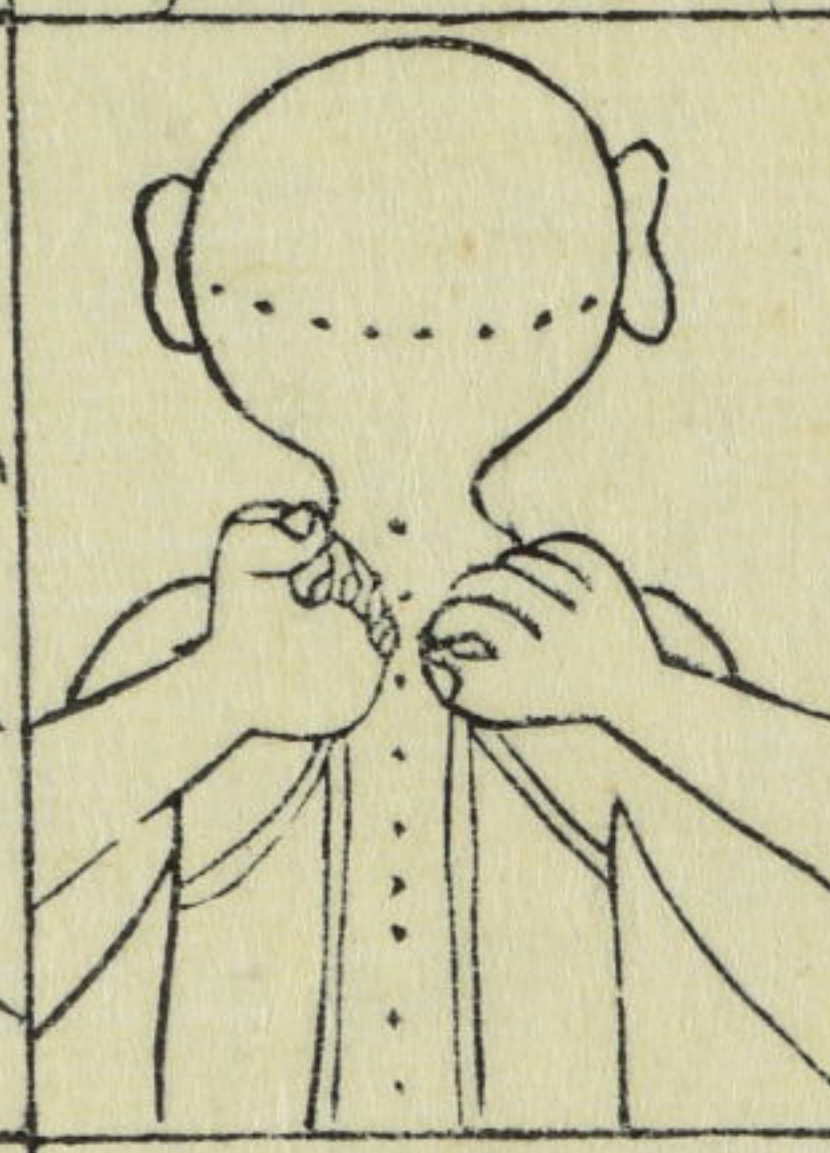
は圖曲ふ也今中指を合指と合
指と指先と折て合を合れた右
ふく曲なり病の合を合れ

骨の分袈



は圖ハ骨の間に氣の滞りたるを
散せむる形也鼻のどくも合
るけも早く療治を

肩のお指



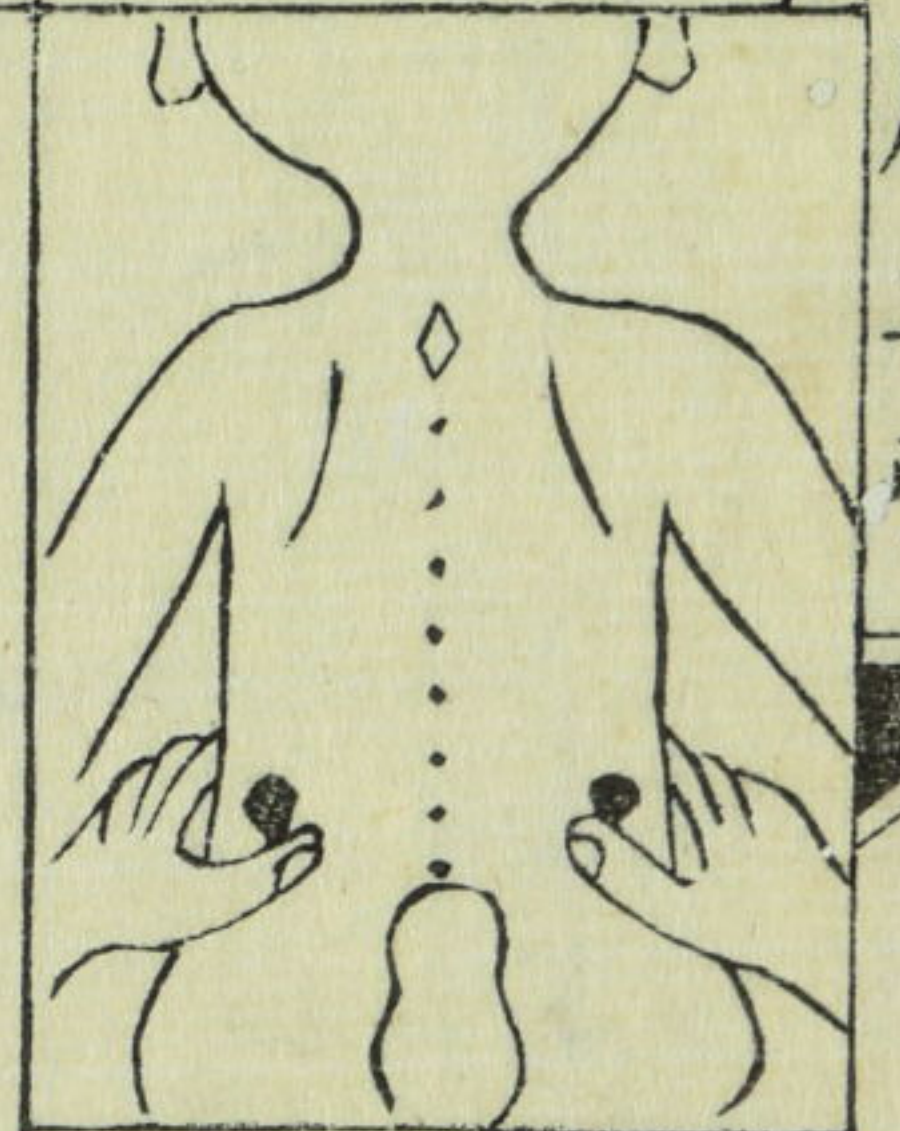
は圖ハ肩をお指也始要規矩は合
お骨を合れくも合を合れ
合く合を合れくも合を合れ

平の指袈

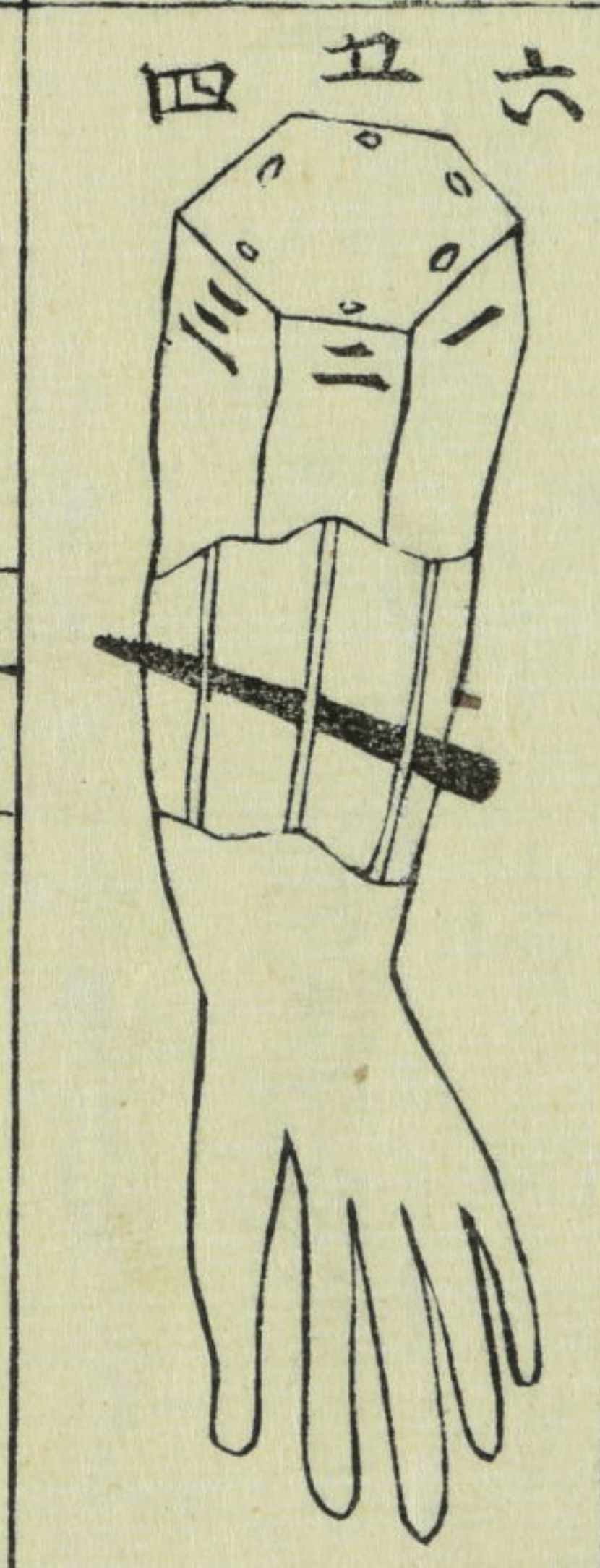


は圖ハ平の指袈と合を合れ
後中の合を合れと合を合れ

按摩手弓 得んの時肘 得んの時肘 得んの時肘



は圖ハ章門京門の浮形にて強く
按し氣と面を極めざる術なり

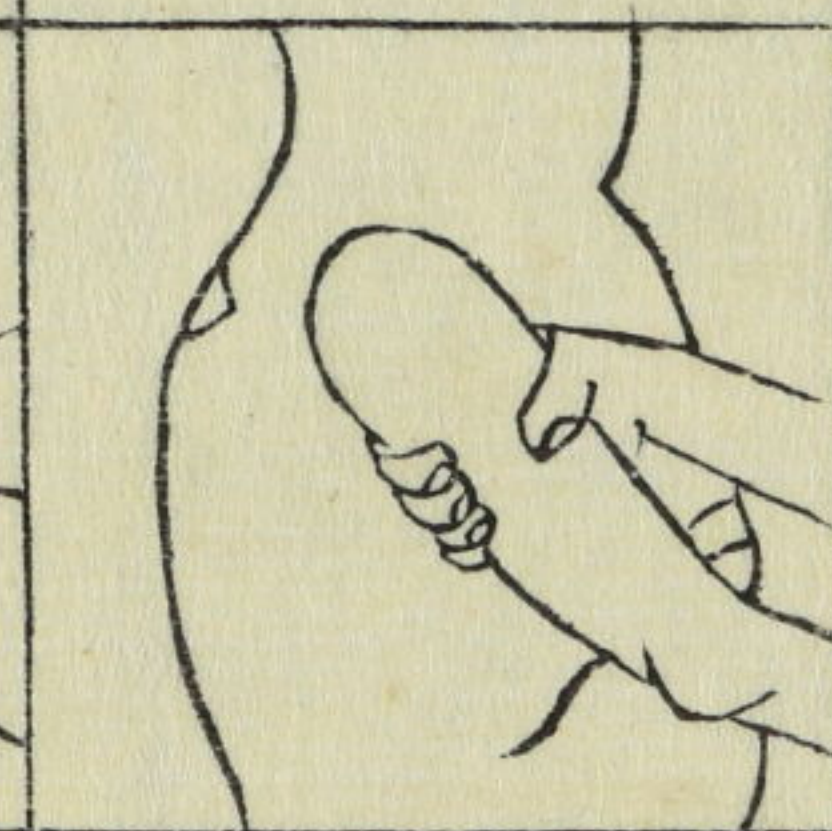


療治の時肘得ん
と云ふは肘の
骨と云ふは
九つと云ふ
是に法なり



は圖ハ肩髃の療治なり骨乃
はくふおよく多し

一の肘



は圖ハ肘臂六角の肉を極めざる
云焦經小腸經となり主經と云ふ
血氣めざるを以療治する

二の肘



は圖ハ肘臂六角の肉を極めざる
大腸經心經也

三の肘

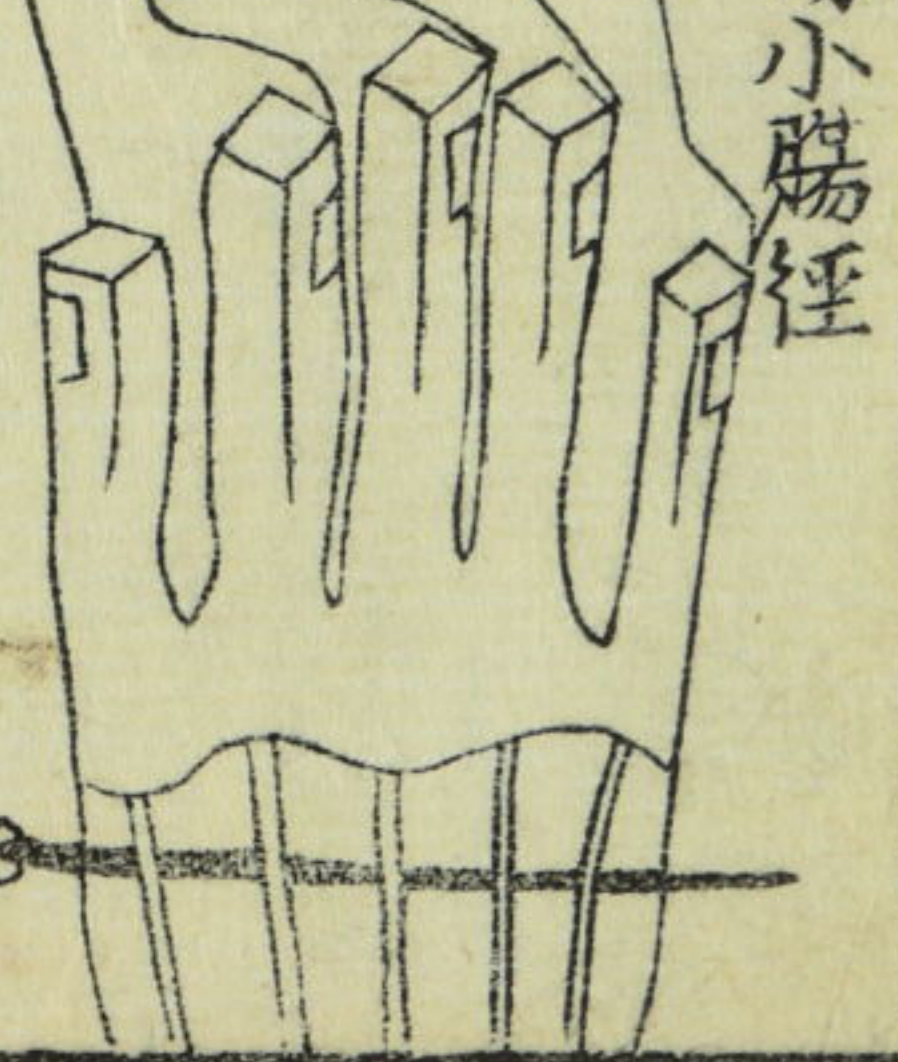


は圖ハ肘臂六角の肉を極めざる
心包經肺經なり

經乃ん得

指の筋をゆるむ
經を知りし療治
山經と心得る

△手太陽小腸經
△手少陰心經
△手陽明大腸經
△手厥陰心包經
△手少陽三焦經
△手太陰肺經
△背の下の掌の下の



手の背の術



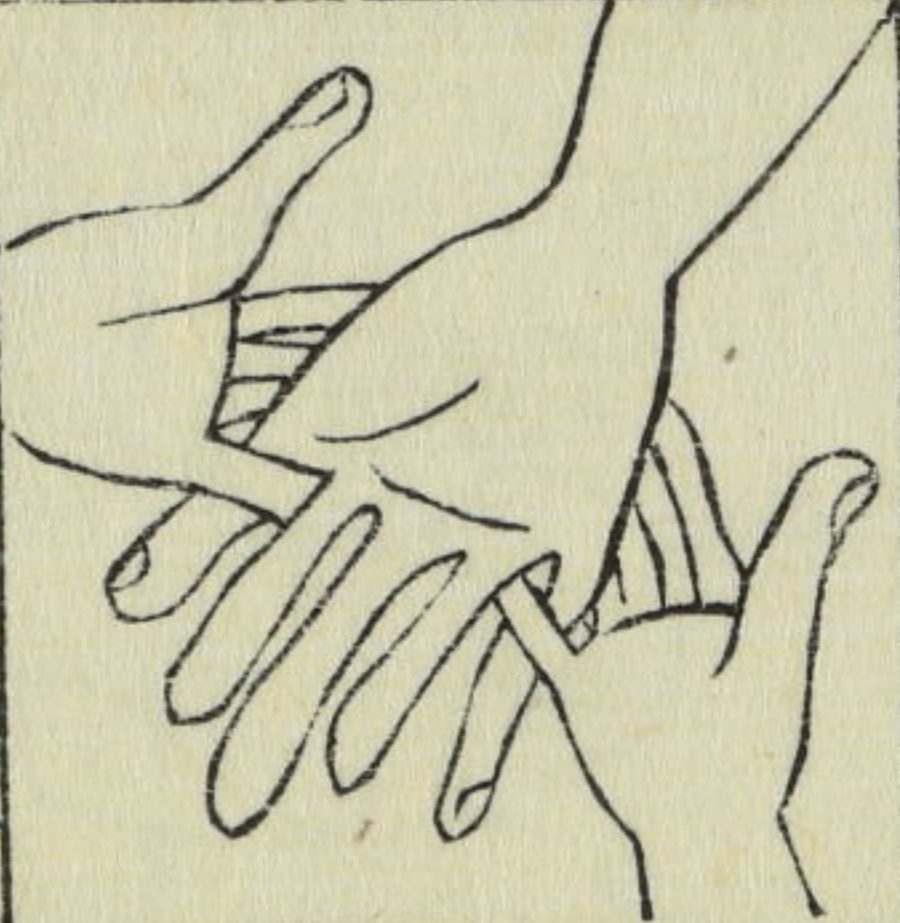
は圖は手甲の療治して指へゆる
氣血の順環せむ

指の曲



は圖は曲も繪圖の如くして指へ
を本くゆる曲なり

手の掌の術



は圖は掌中をゆるむ
繪圖の如くして指をゆる
の平をたをく分排せむ

肘の術と握の術



は圖は曲池の穴を繪圖の如く
腕骨と握りたるゆるむ

指のゆるむ



は圖は指の療治をゆるむ
ゆる指の肩をゆるむ

肘の引の術 手の指の引の術 腰の術



は圖ハ肘臂と引術也肩髀の平より
向く押腕骨と引く病客の體
動さる腕臂より引術は療治也

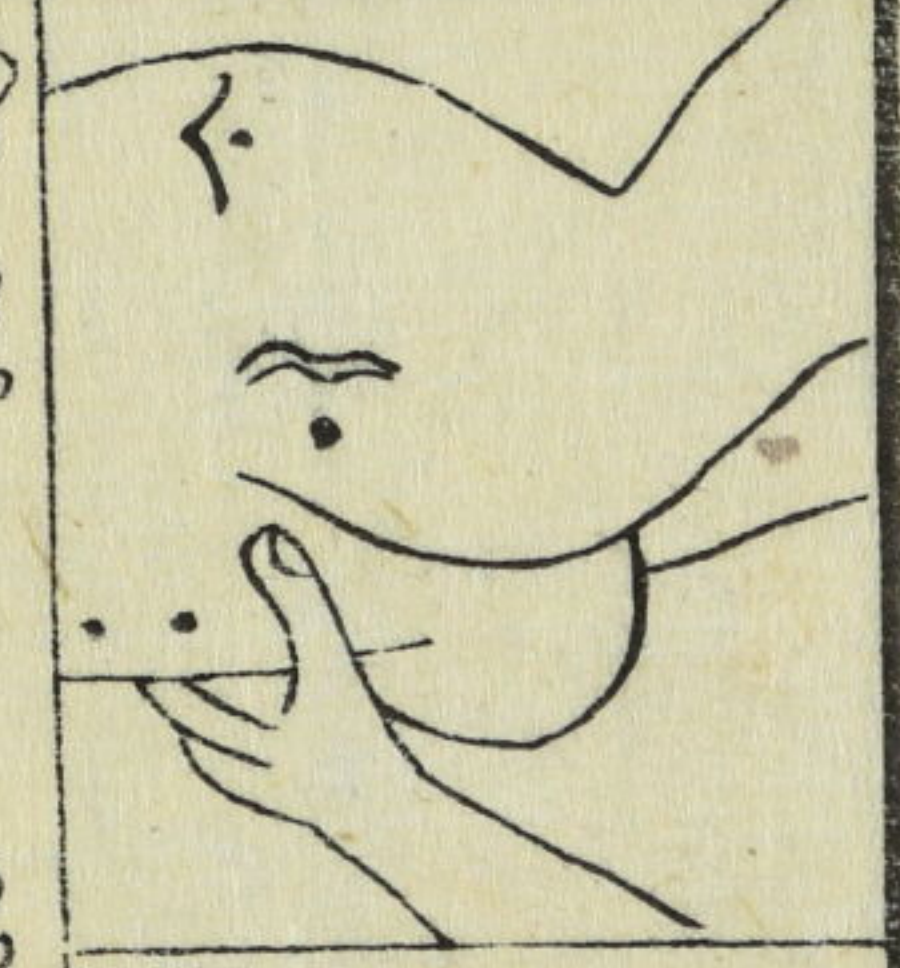


は圖ハ肘臂の療治の終指の中より
を度にて振り引く術なり



は圖ハ腰の療治なり腰ハ骨多し故に
指先とさるる中療治より骨の
行血氣血順環なり

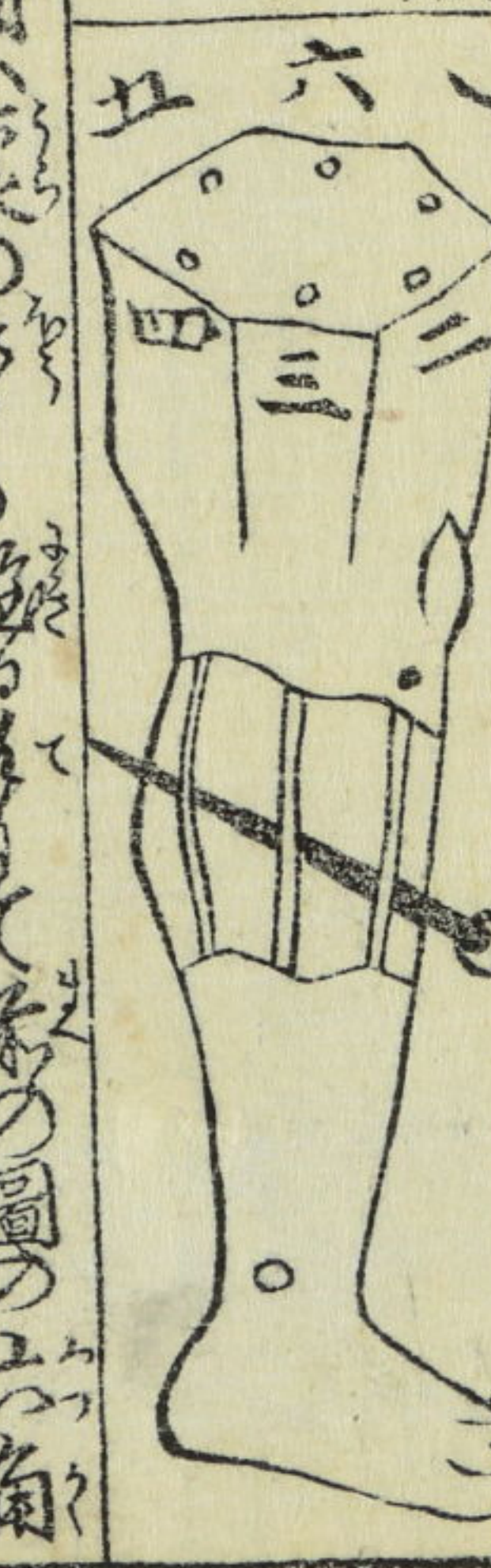
足の引の術



は圖ハ足の引術なり足は
療治人の體の使ふなり體の使
より療治より引く術なり

足の引の術

足の形も療治の術なり
と定むるは足の
墨を引くなり



足の引の術



は圖ハ裏のより引く術なり
の一二四にあり是足太陽膀胱經足
少陽膽經と云ふる術也

足の引の術

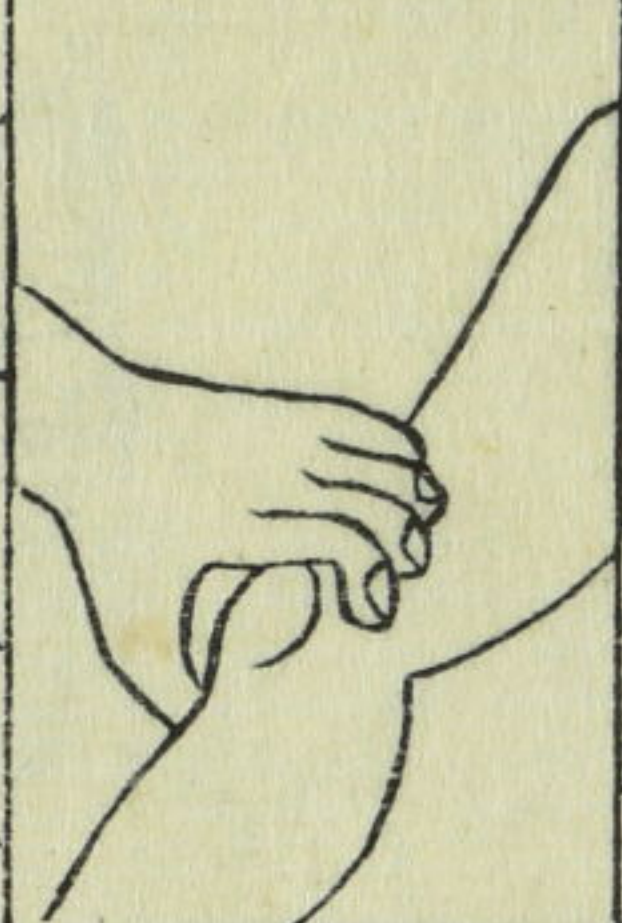


は圖ハ表のより引く術なり
二五にあり是足陽明胃經足少
陰腎經と云ふる術なり

三の術 二の術 一の術 足の指の次



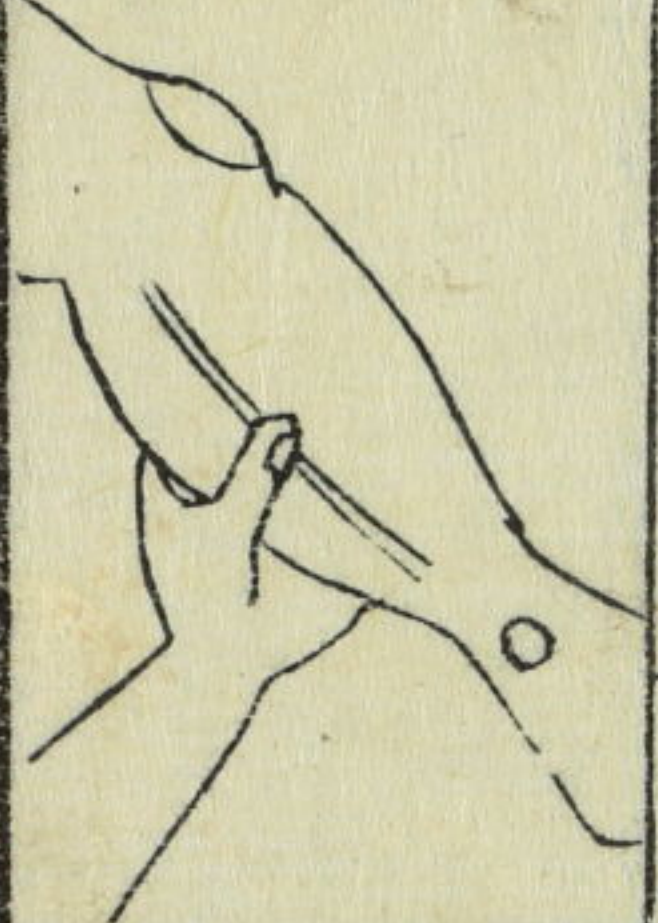
は圖ハ側より握りて、その圖の六角の二ト六トに針を刺す。是足厥陰肝經、足太陰脾經、行らざる術也。



は圖ハ膝の四角、癰瘡を穿る術也。膝を穿る物なり。此を穿るもの、一より三まで、必ずしも、一より三まで、引上るゝもの、一と三と。



は圖ハ三里に刺す。此より、一と三と、六角の二ト四ト、なり。是足陽明胃經、足少陰腎經と行らざる術也。



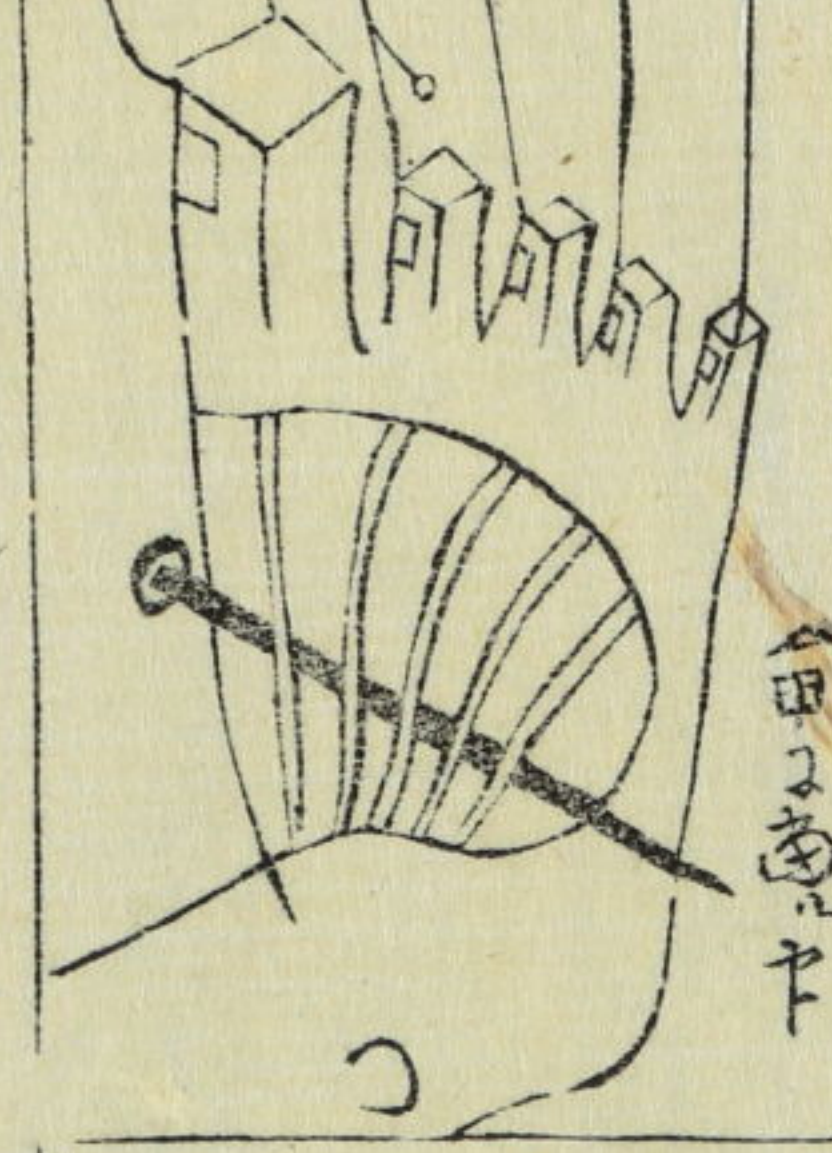
は圖ハとらりて、六角の二ト六トより、是足太陽膀胱經、足厥陰肝經と行らざる術也。

足の指の次



は圖ハ則、六角の三ト六トより、是足少陽膽經と足の太陰脾經と行らざる術也。

足太陽膀胱經
足少陽膽經
足少陰腎經
足陽明胃經
足厥陰肝經
足太陰脾經



足の指の次、指と圖、は圖ハ湧泉の癰瘡の術なり。病害のこと、を、ぬき、に、は、る、癰瘡、を、穿、る、也。



は圖ハさびと二三寸の、を、わ、く、に、ま、て、療治する術也。



は圖ハさびと二三寸の、を、わ、く、に、ま、て、療治する術也。

足の甲の術



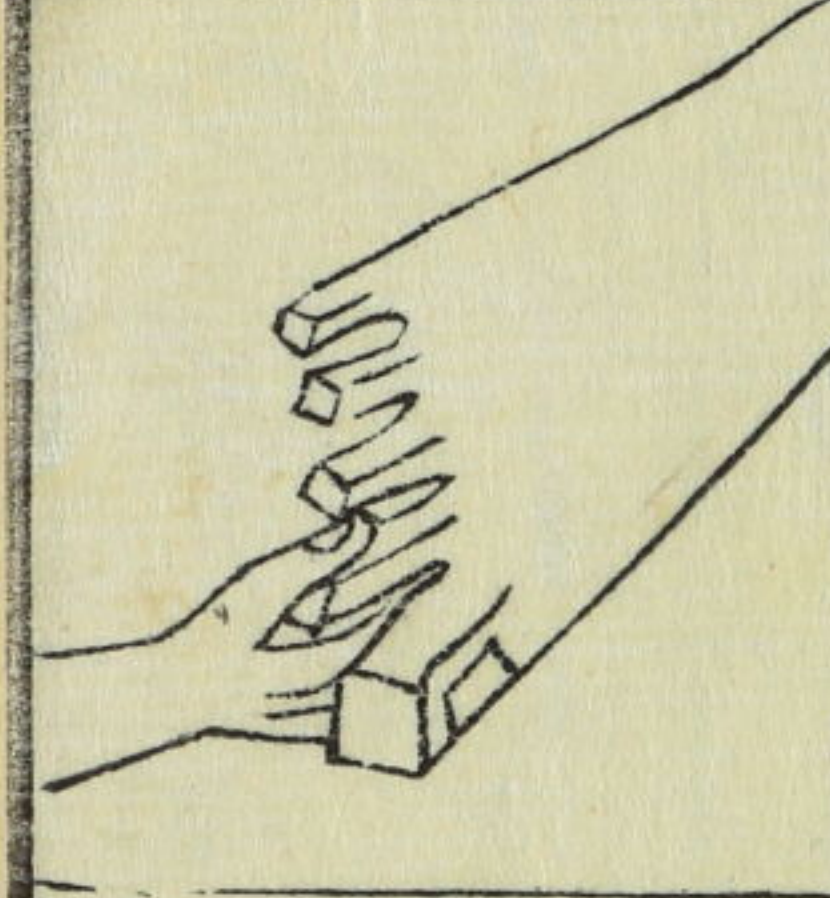
は圖ハ足の甲の療治なり甲ハ筋多くあり
たふ効きてふかきなりと云ふなり是を割
るなり按摩し指も又分排なり

六角の術



は圖ハ足外角に經と云ふ療治終れ
す又六角に血氣を流るなり

足の指の術



は圖ハ足の指を引伸也蓋し指と根を
より多く療治と云ふなりと云ふ押合
たる指か多し能くやう極めなり

療治終術



は圖ハ惣々に按摩終り終りて足乃
より多く指より多し散散せしむ
のなり

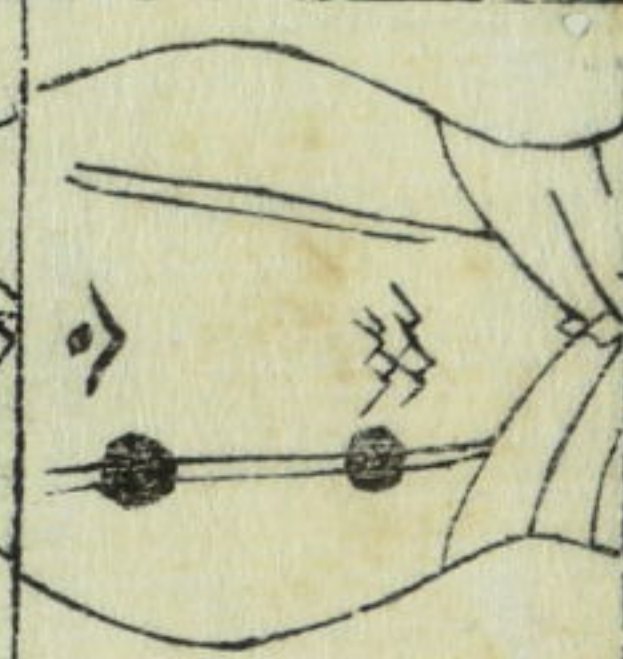
腹診事

食の痛の腹



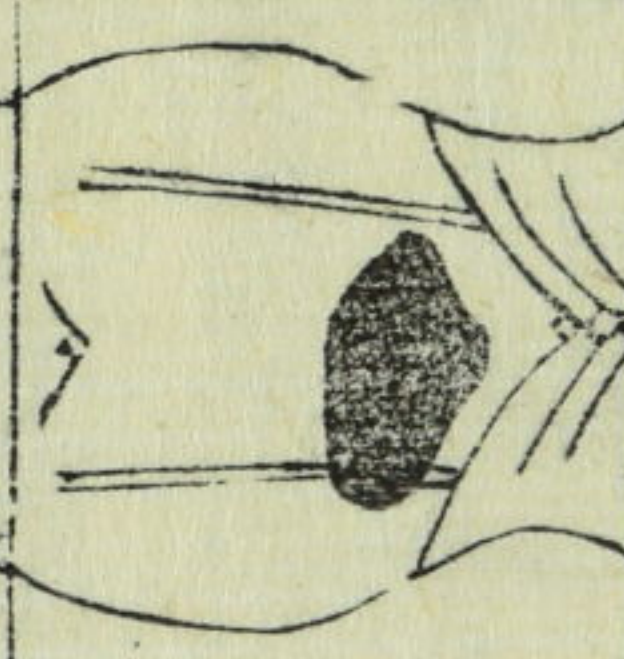
は圖ハ腹の痛の圖なり任脈を灸る療治人の心通と云ふなり
教多し且て此と云ふ圖と云ふ得ては按摩して治すなり
けはのめくたの胸の下にありたる宿食と
脾胃和せどあつまりて脊の七九の推よこ
すくくなり或ハ痛事もあり

積聚の候



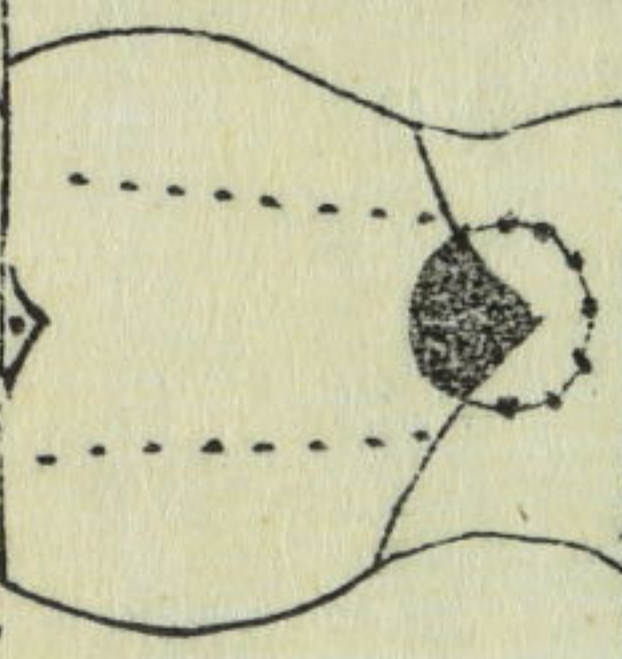
此圖の如く中腹に水氣をたまりて動悸を感ずる候は
積聚あり或は
腰足引たり又ハ經を急せり肝積起るものなり

勞苦の候



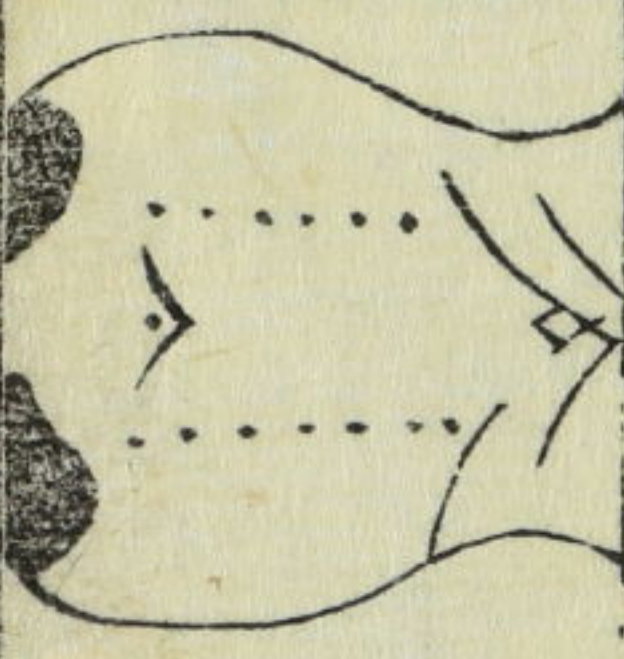
此圖ハ一証の思ひ受不絶なる心身の疲なり
不食氣弱して或ハ月ささく移る候は
眠るを思ふた憂は見えたり

治難の候



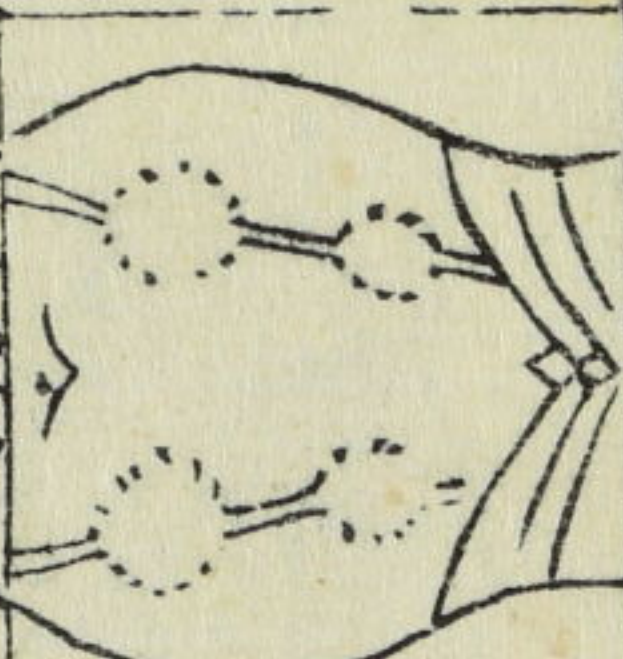
此圖の如く鳩尾先より登り堅まり動悸
ハひつゝ

血塊の候



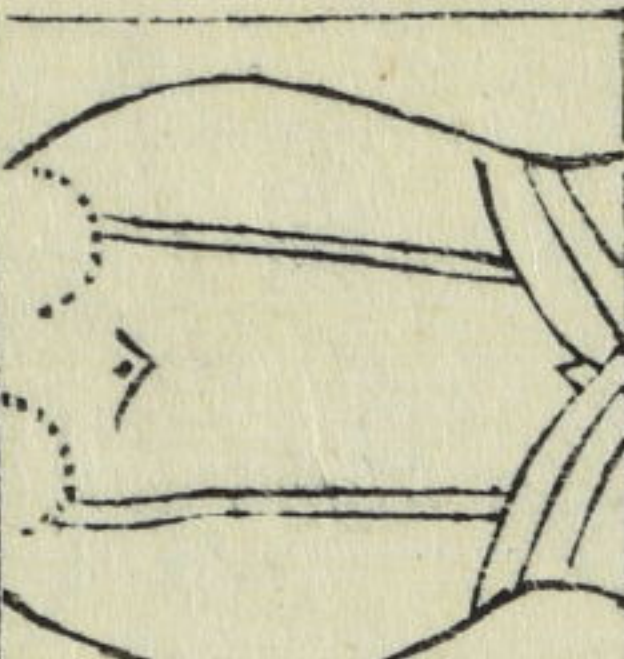
此圖の如く腹に大なる塊あり或ハ婦人
ハ血塊なり男子ハ疝氣多し

虚人の候



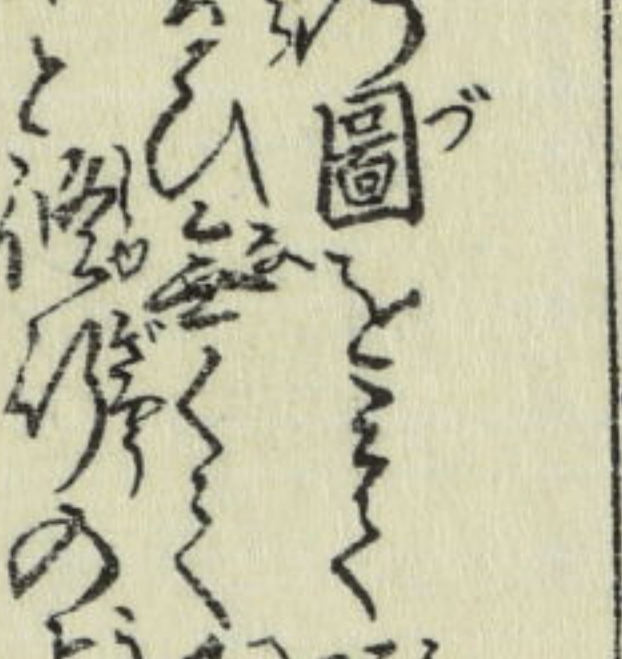
此圖ハ動氣ありて全肺の腹に力なく皮膚
ざらつきしむるハ虚なり

肺氣の候



此圖の如く肺より他人の肌の如く覺えて
あぶきあるハ肺氣なり

巨里の候



此圖ハ巨里の動悸何れも其人の虚實は
知り又病人の心要はあつる候なり

按摩の法



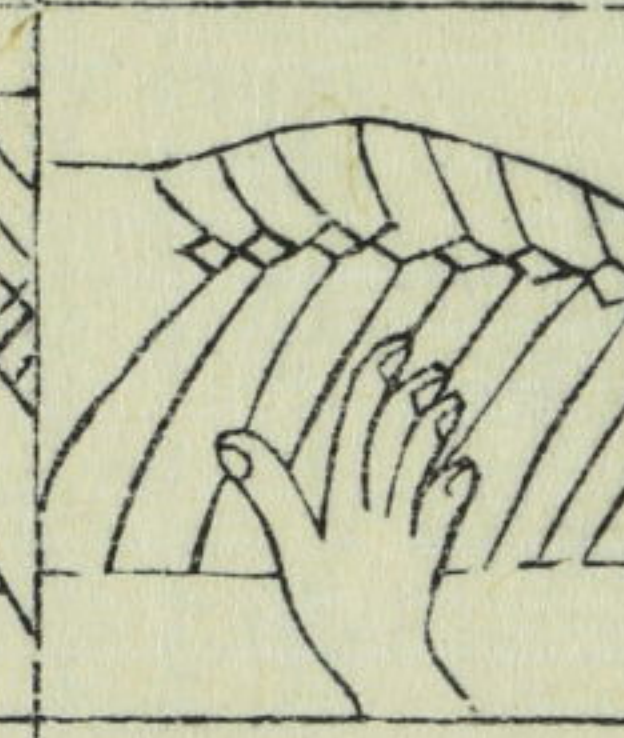
按摩の法
腹中の病は知れずは按摩して之を病は治すは按摩
の如くハ腹中の病は知れずは按摩して之を病は治すは按摩
の如くハ腹中の病は知れずは按摩して之を病は治すは按摩

手の骨肋を



は圖ハ右の胸の骨の分排する所なり
之をさぐるのときより指先を骨の
筋に骨母はひくさぐるなり

手の骨肋



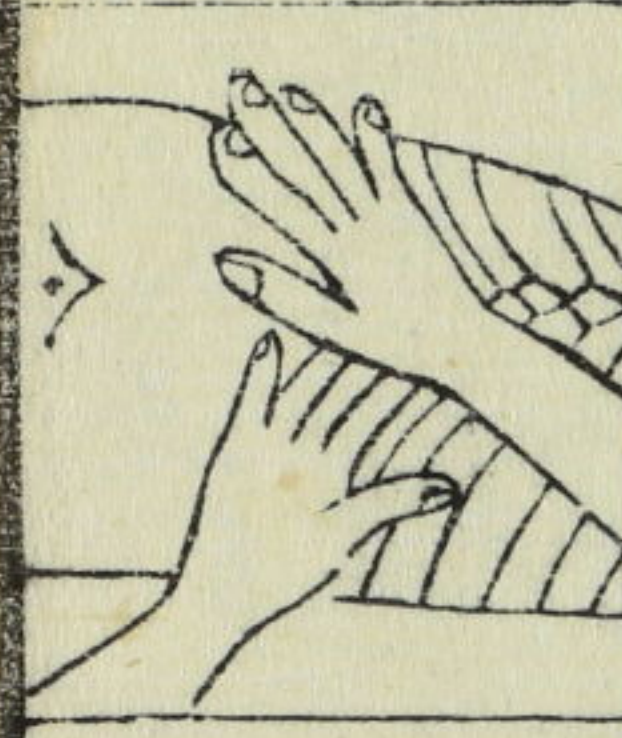
は圖ハ右の胸の骨の分排する所なり
之をさぐるのときより指先を骨の
筋に骨母はひくさぐるなり

手の経胃



は圖ハ右の腕の骨の分排する所なり
之をさぐるのときより指先を骨の
筋に骨母はひくさぐるなり

手の排分



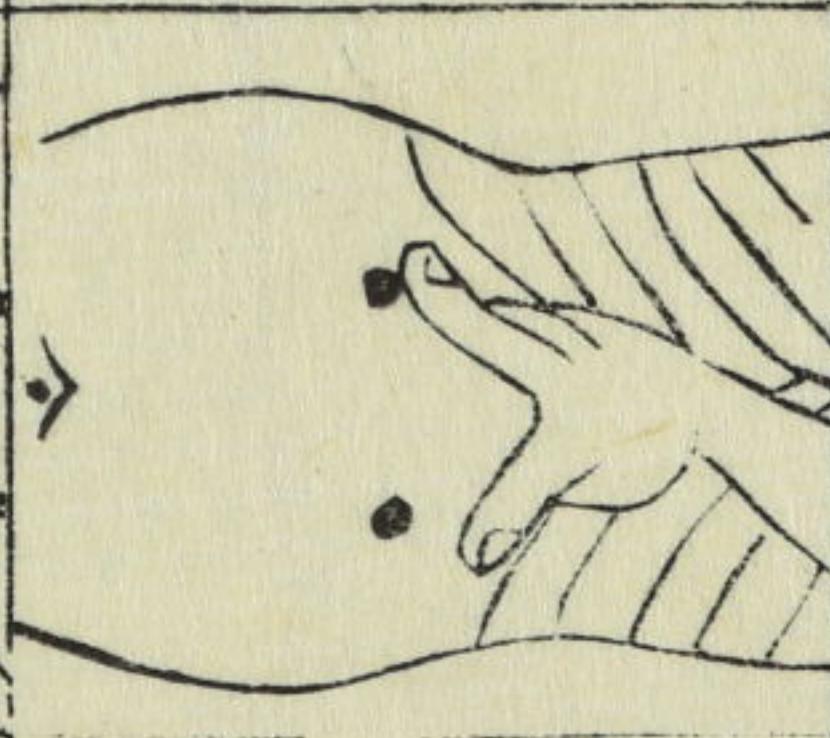
は圖ハ鳩尾より腕の下章門の筋をさぐる
之をさぐるのときより指先を骨の
筋に骨母はひくさぐるなり

手の尾鳩



は圖ハ右の指の中指より指の末節まで
尾母をさぐるのときより指先を骨の
筋に骨母はひくさぐるなり

手の容石



は圖ハ右の容の穴の繪圖の通り
呼吸を定めて腕の中をさぐるのとき
より指先を骨の筋に骨母はひくさぐるなり

手の急拘



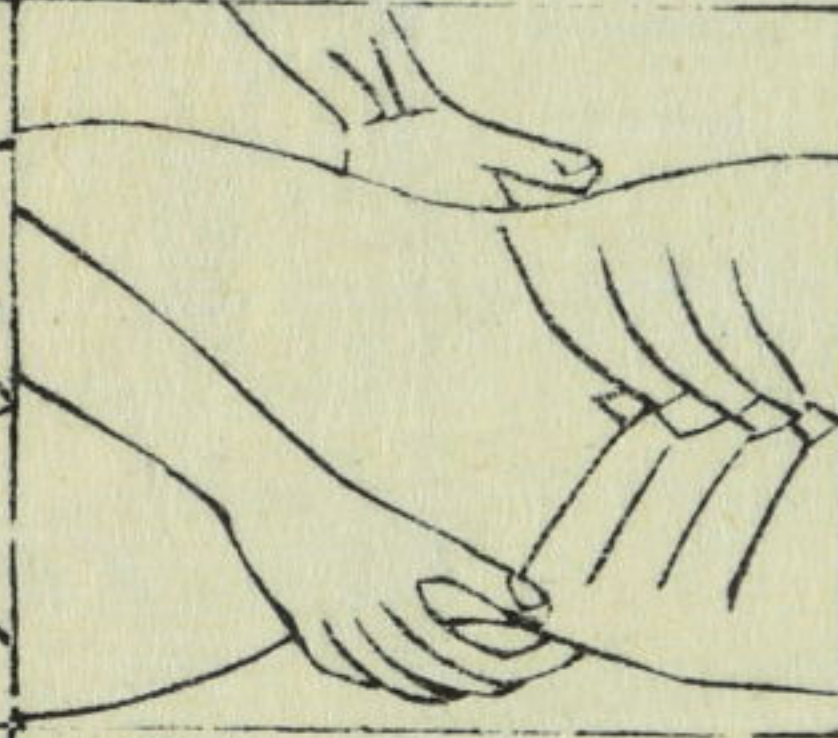
は圖ハ右の拘の穴の繪圖の通り
急を定めて腕の中をさぐるのとき
より指先を骨の筋に骨母はひくさぐるなり

凡橋手の



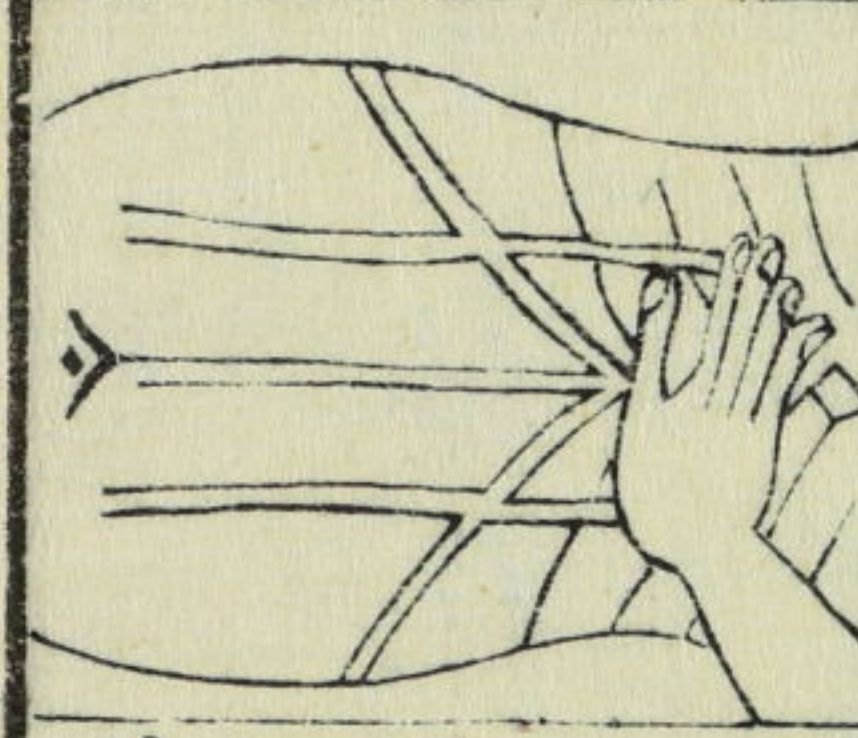
凡橋手は動氣を不張押く指先を動かす呼吸を法として指先を其處に動かす氣は此處に積りたるを御すなり

搔との



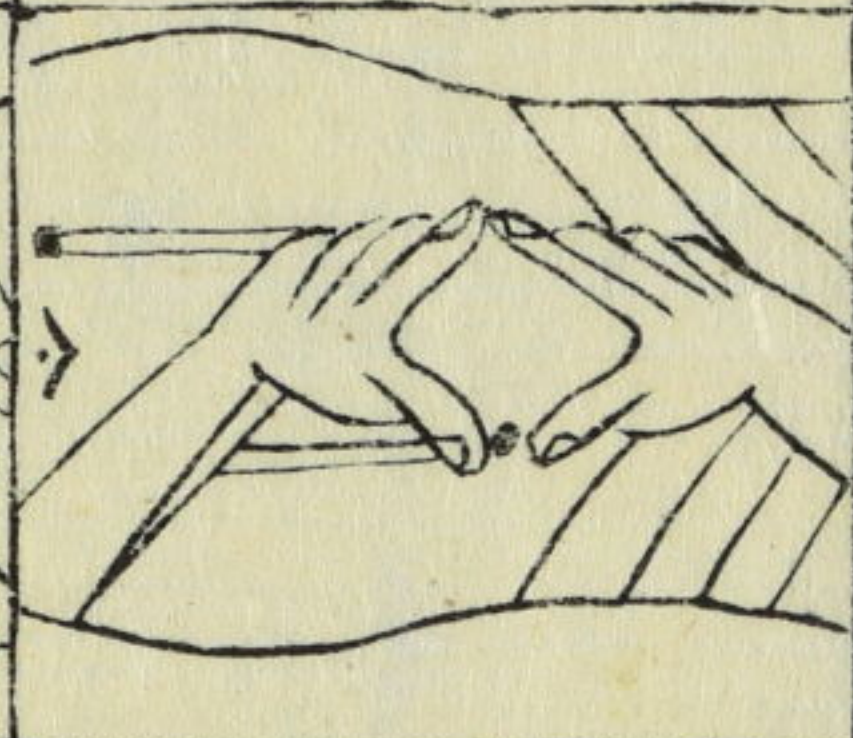
凡橋手は脊骨を挟み其の手のひらに七九十二の推の處を指先で打て其處を御すなり

平手の



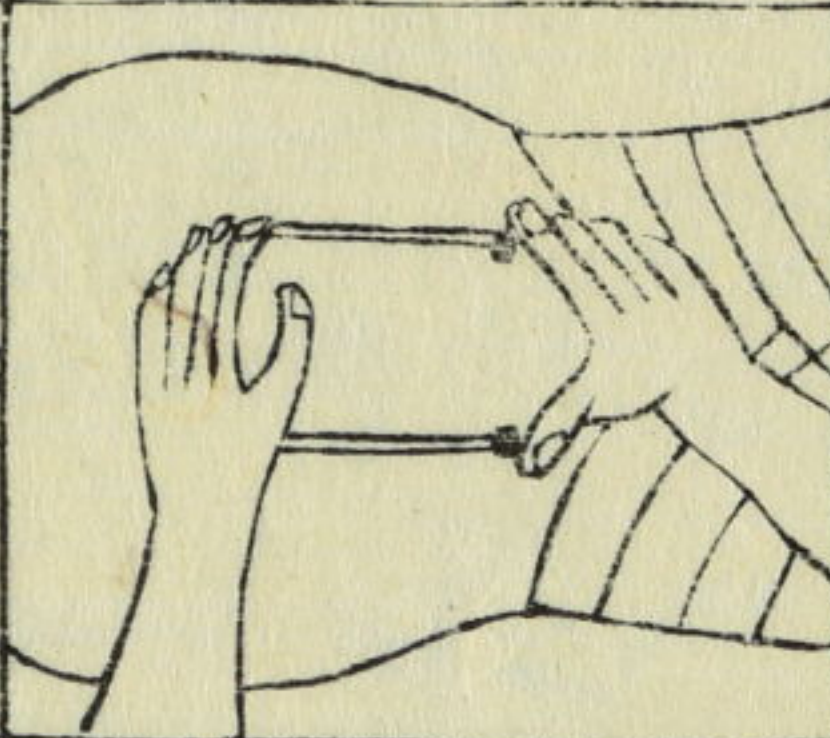
凡橋手は平手の手のひらに七九十二の推の處を指先で打て其處を御すなり

兼瀦手の



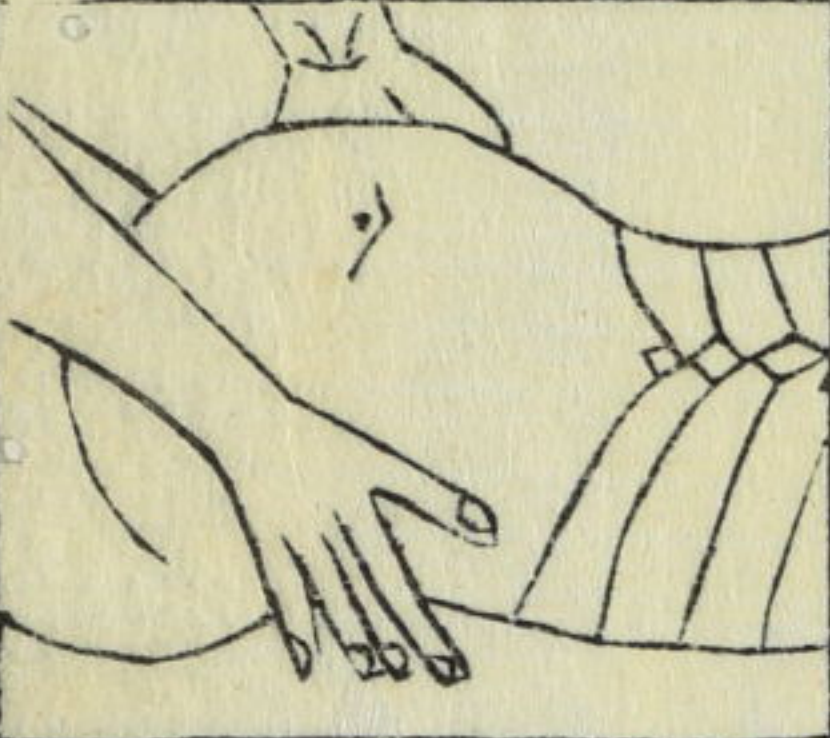
凡橋手は兼瀦手の手のひらに七九十二の推の處を指先で打て其處を御すなり

降氣手の



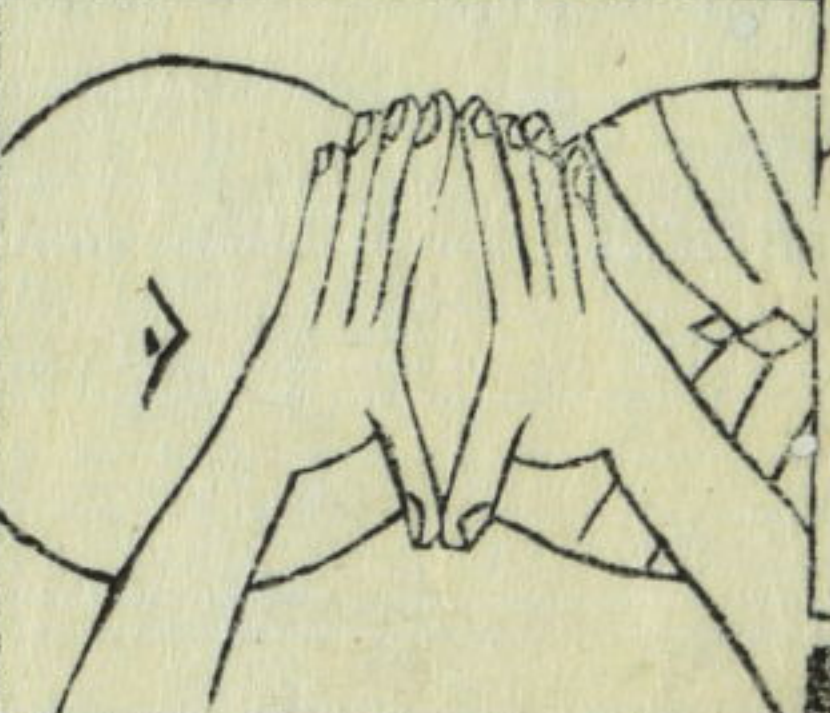
凡橋手は降氣手の手のひらに七九十二の推の處を指先で打て其處を御すなり

章門手の



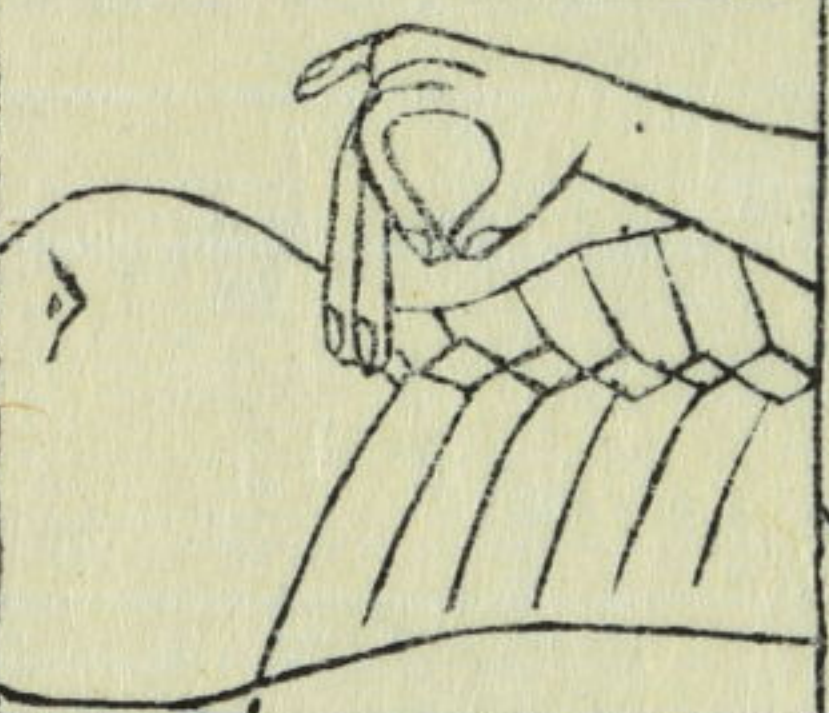
凡橋手は章門手の手のひらに七九十二の推の處を指先で打て其處を御すなり

手の上臍



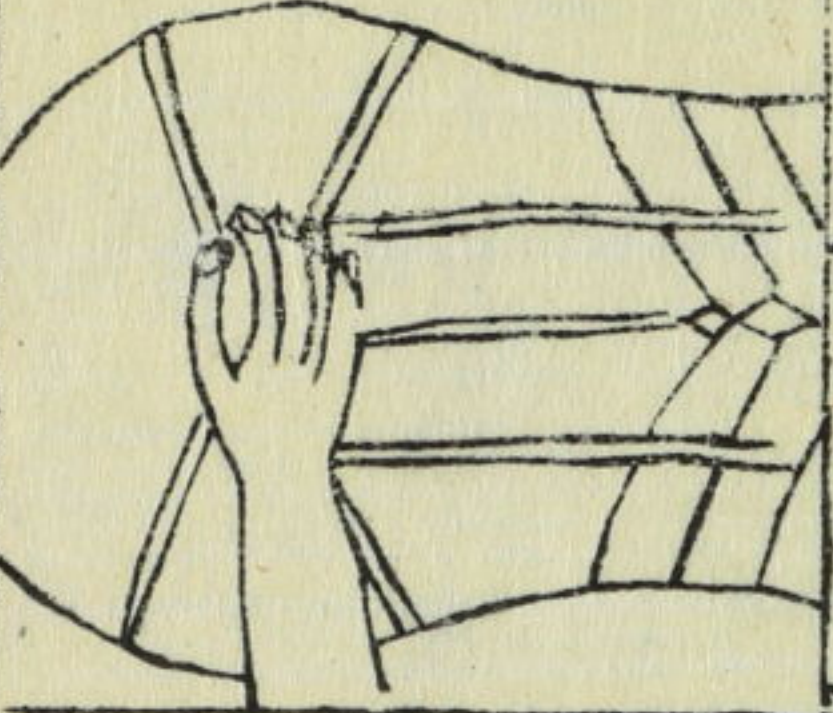
は圖ハ章門の透より肘の上給圖のてい
手はあか舟の櫓と盪とてあて
肘はよけとてらとて御あり

手の上臍



は圖ハ鳩尾に中指無名指と接して
今一指ト大指中々そけとらに腹中
響音りじりよく氣散る御あり

手の上臍

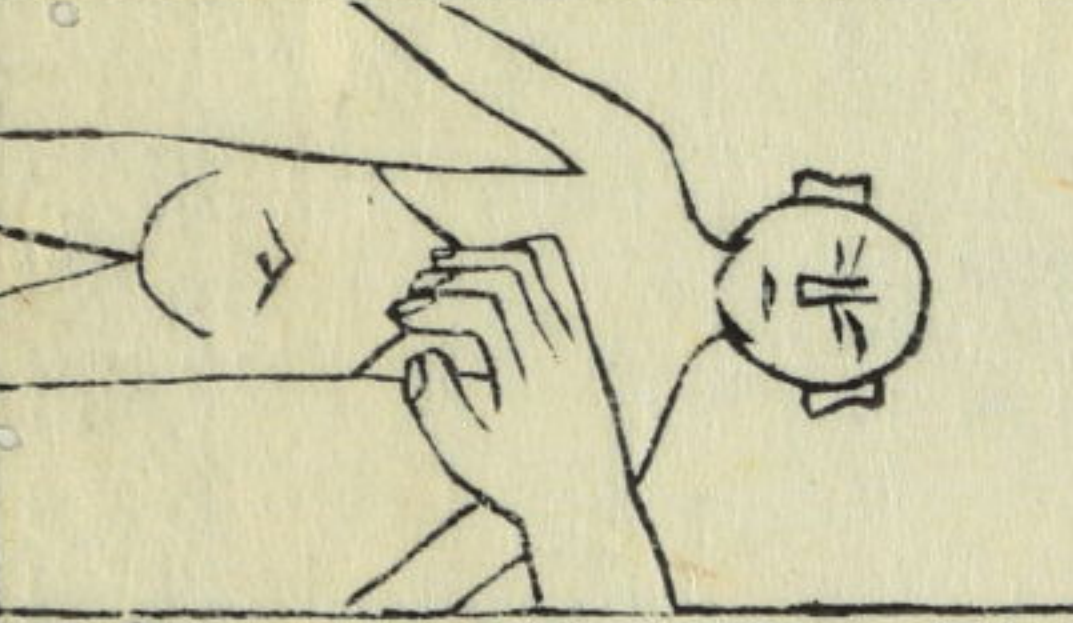


は圖ハ立横中筋に上平に
のろあへ膝上あくなまごけ中なる御
てよけ止む御あり

小児

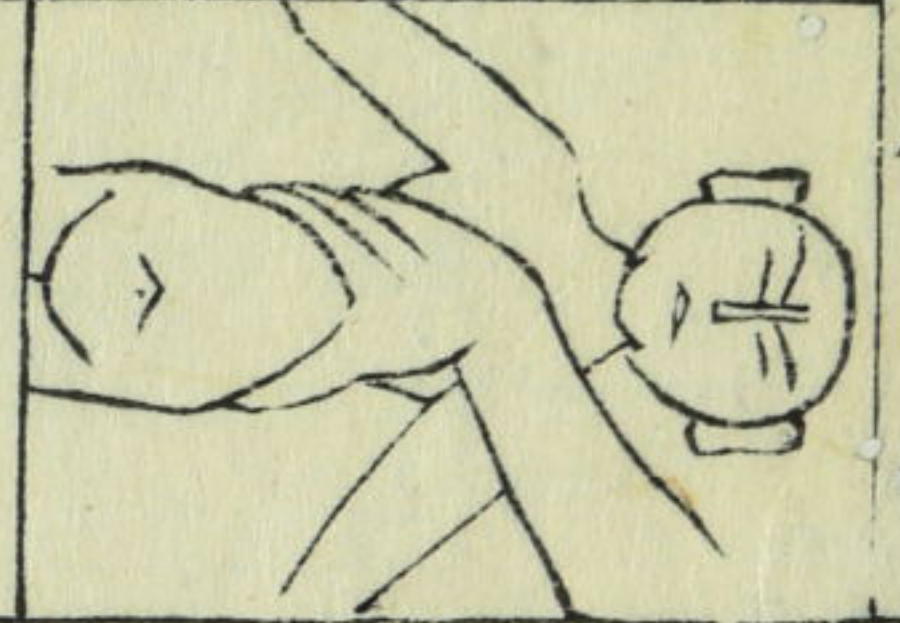
小児按腹ハ痛ひとあてとてとてあてとて小児の
いふ叶ふ候中とては子の外大人の按腹法にて
見あてを考へて

手の始



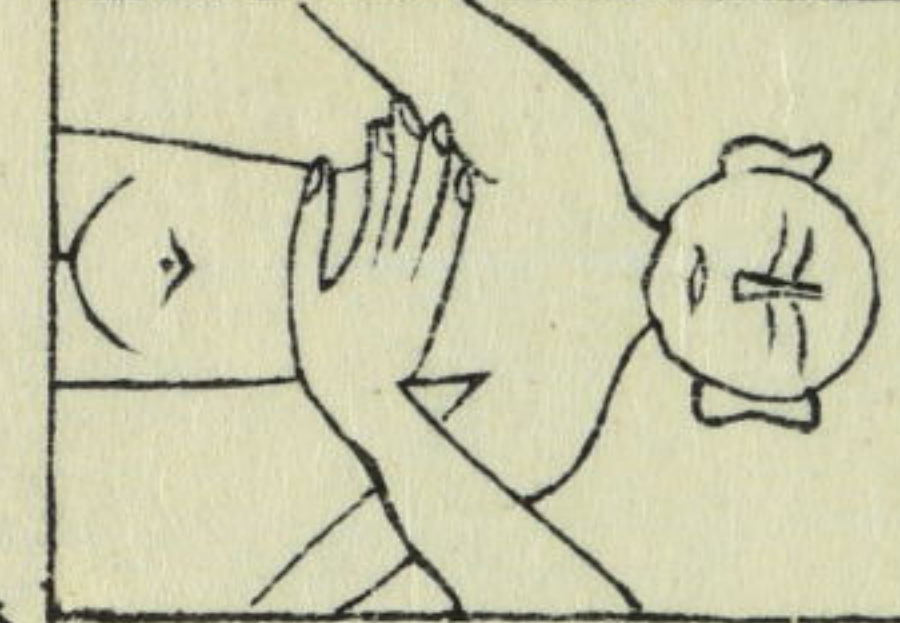
は圖ハ鳩尾に中指無名指と接して
今一指ト大指中々そけとらに腹中
響音りじりよく氣散る御あり

中の手



は圖ハ章門の思ふ所はた右とも指代
あつたひは押さる股中れ和さる又和と
御水より湯あふんの時たそ母も和と和と

後の手



は圖ハ腹中一画にあらる御水より小思一切
み終と一そ病の時中も和と和と和と

産婦

産婦七手の按腹の御ハ懐胎のるおと死めそそ産
とふあそこの婦人腹中より安産は懐胎の御ハ産時懐胎

一の手



は圖ハ章門の思ふ所はた右とも指代
抱寄る和とそ産産の御ハ和と和と和と

二の手



は圖ハ腹中一画にあらる御水より小思一切
抱えあつらん和と和と和と

三の手



は圖ハ腹中一画にあらる御水より小思一切
抱えあつらん和と和と和と

の四



は圖ハ不審の血氣た右なかい申候と云ふを
てきにた右え分排する御あり

の五



は圖ハ不審の血氣た右なかい申候と云ふを
神機骨毛際のもを申候と云ふは神機に抱くもの
より後申候ものより申候ものより申候ものより
小便なるより申候ものより申候ものより

の六



は圖ハ不審の血氣た右なかい申候と云ふを
強く靜に押すの位に申候と云ふは

の七



は圖ハ不審の血氣た右なかい申候と云ふを
指と申候と云ふは

鍼灸

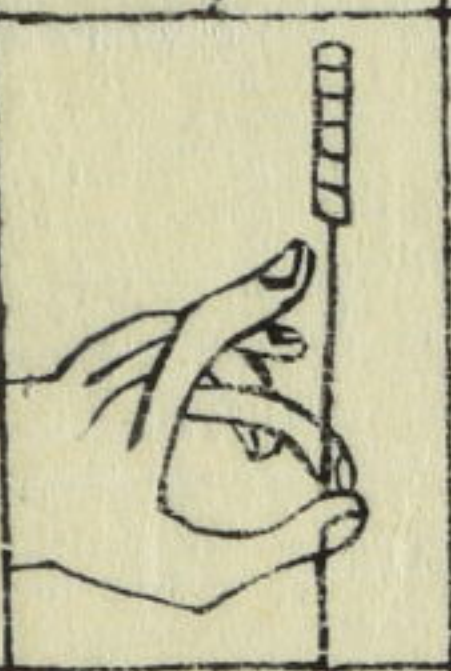
夫針灸の管針を針をの瀉義を元氣流の検針に別るは灸は
の瀉義を元氣流の検針に別るは灸は
灸は元氣流の検針に別るは灸は
灸は元氣流の検針に別るは灸は

の八



は圖ハ不審の血氣た右なかい申候と云ふを
灸は元氣流の検針に別るは灸は

の九



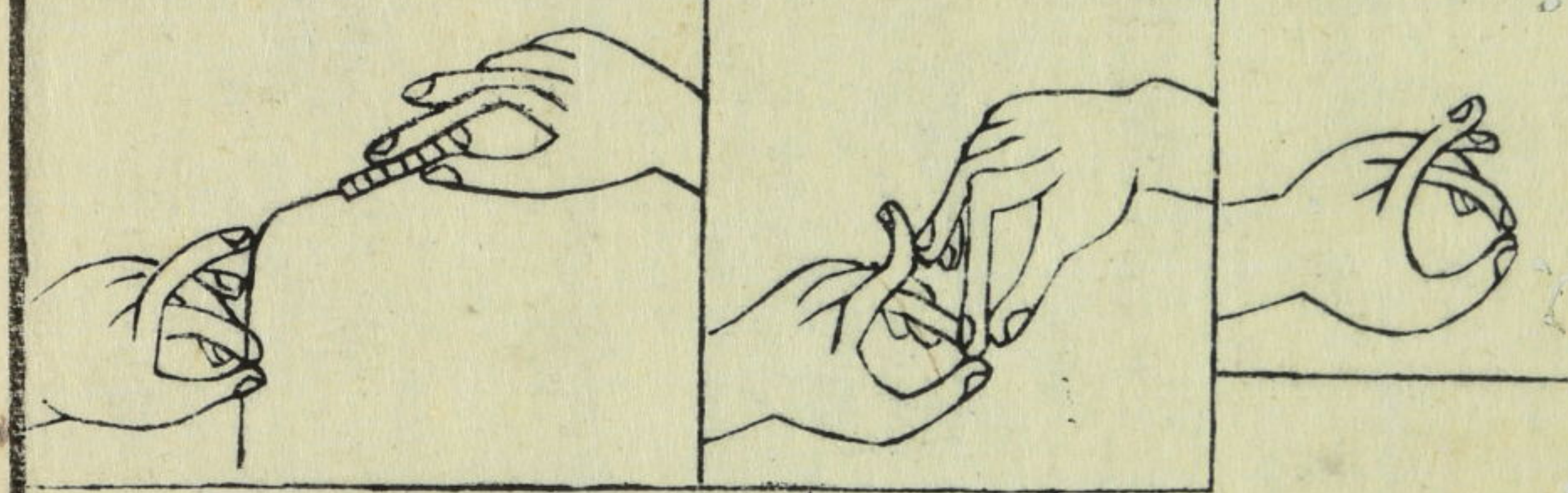
は圖ハ不審の血氣た右なかい申候と云ふを
灸は元氣流の検針に別るは灸は

の十



は圖ハ不審の血氣た右なかい申候と云ふを
灸は元氣流の検針に別るは灸は

傳秘針長	傳合も揅押	傳のふ押
------	-------	------



此圖ハ大指ト中指ト寄合ハ指三本
 此處ト指三本ト指三本ト指三本ト
 針の利候早ハ又病人寒氣のたふしを
 少其時今指中衣針候よりなり
 此圖ハ揅子押ハ寄合ハ指三本
 此處ト指三本ト指三本ト指三本ト
 針の利候早ハ又病人寒氣のたふしを
 少其時今指中衣針候よりなり

お二人小児産婦接腰の法我師家傳授の秘術と顯し
 世上人の痛苦と救んと欲るものなり腰ハ五臟六腑の所
 ありて十四經絡の出入する處ハ傳授なり七接腰なる時ハ五
 臟の居る處と六腑の居る處と隔てて人々害する事少し
 書にわたり守法あり七接腰と云ふ五臟六腑の居る處
 十四經絡の出入する處無病壯健の人と云ふ痛は餘の好術
 口傳とて傳授の志ある人ハ事ハ少しなり

勢語廳新

全五冊

いせおきく書小考又得ふ群一

玉のつ

本居大入著

を素人たる者なりてち神韻の

吉野物語

全三冊

一巻ハ

遊仙窟抄

張文成 五冊

崔暹我天白主の時時學士伊時

に多ありて訓とつてけんん

の住ふありて其のれたり

二村銷夏錄

六冊

清きと書畫望定の書也

四書集註

道春 十冊

百人一管

彩色奉書摺

石井行宣御筆

箱入一冊

土佐光貞朝臣画

百人一管の画像ハ土佐

お大いあやうし

とて解くれば諸

中將姫行状記

片方付七冊

同 一代記

後入五冊

中お姫かきう

あまきうのけ

と承平

と承平

増補醫方明鑑

藥筆本

世小医家方書

古方小方

はを方と

か病のそ

方鑑古今方書

効の要方

補小と千有餘條

改る丹家訂

天災懸隔

かれ方彙中

艸書韻會

自漢至金

堙墨主洗

瘟疫論

全三冊

明吳又可原本

荻野台洲校正

同 方論

全三冊

同 標註

全三冊

明吳又可原本

黒弘休伯芝標註

同 類編

全三冊

清劉松峯評釋

日本多紀法眼閱

京城書苑

文徵堂輯

都下諸名工

一帖トス

艸韻彙編

全六冊

自漢至明

本翻刻

元三大師御覽抄

中本二冊

中本二冊

中本二冊

中本二冊

中本二冊

中本二冊

中本二冊

中本二冊

中本二冊

中本二冊

中本二冊

中本二冊

廿四孝感同

能次了介述

眠の策

西

後選夷曲集

全三冊

柳翁類題集

全一冊

仲燈

全一冊

狂歌家土左

頁折

日松

日

日松

日

日松

日

日松

日

日松

日

日松

日

日松

日

日松

日

